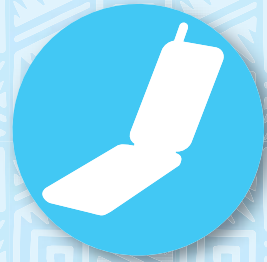


ヤングの生き方・暮らし方

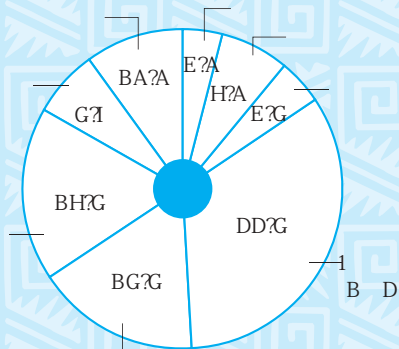


CA
DE BA
BD

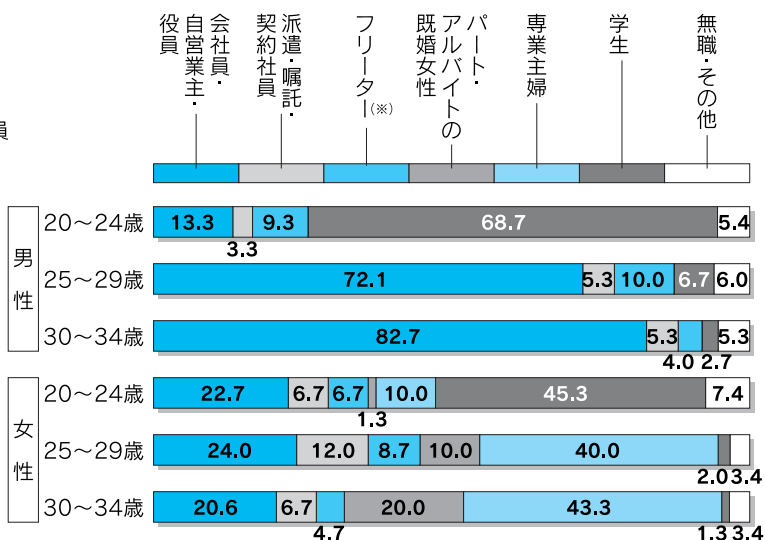
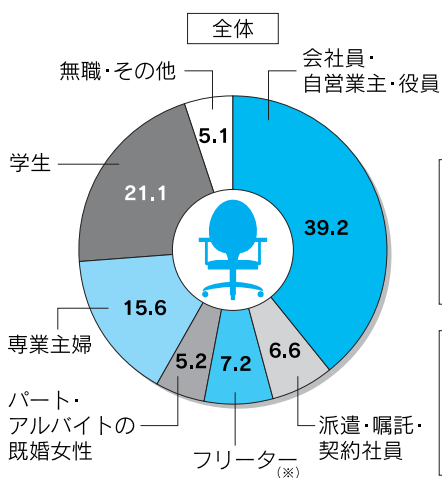
CA DF
DE EJ

FA
HA

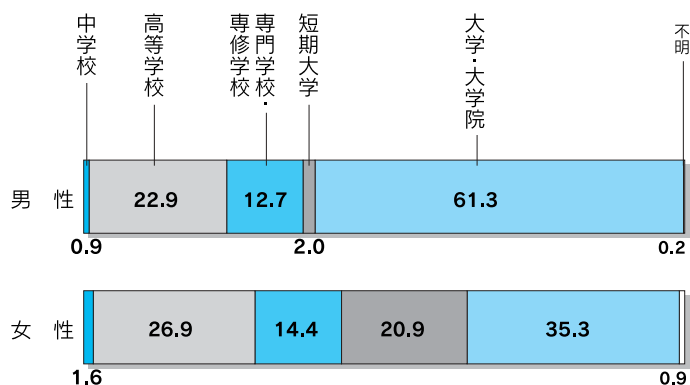
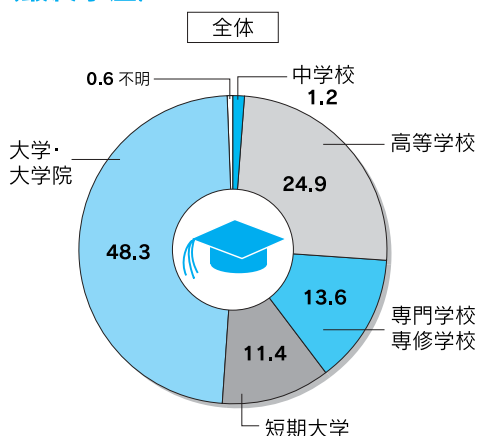
	CA CE	CF CJ	DA DE
	BFA	BFA	BFA
	BFA	BFA	BFA
	JAA		



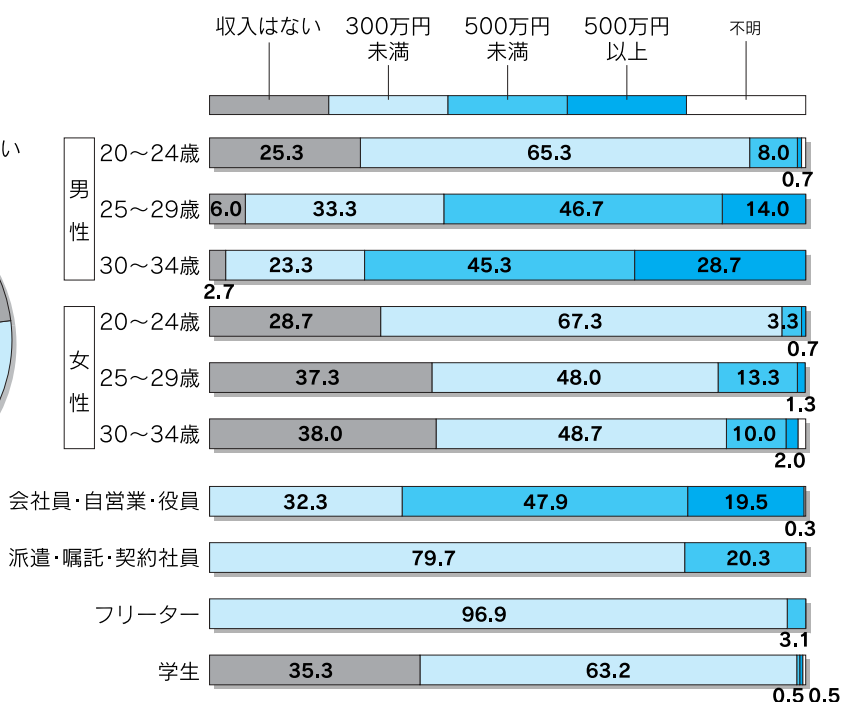
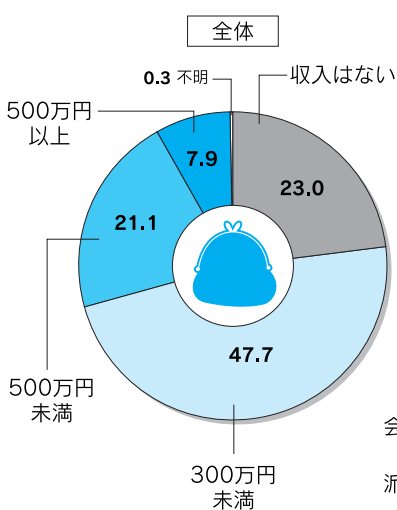
〈就業状態〉



〈最終学歴〉



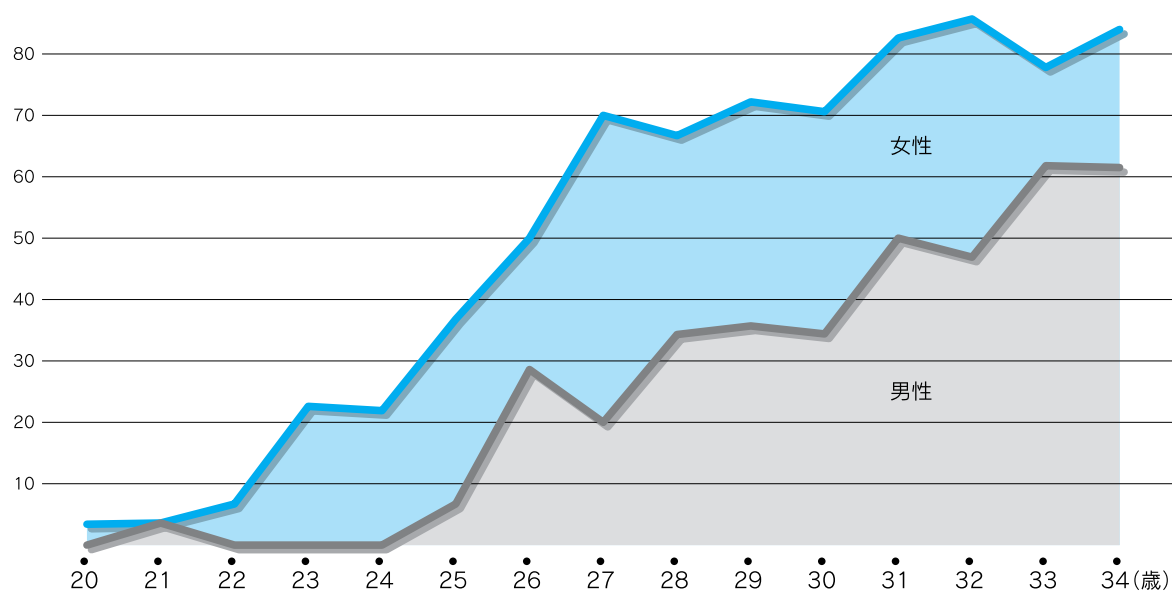
〈年収〉



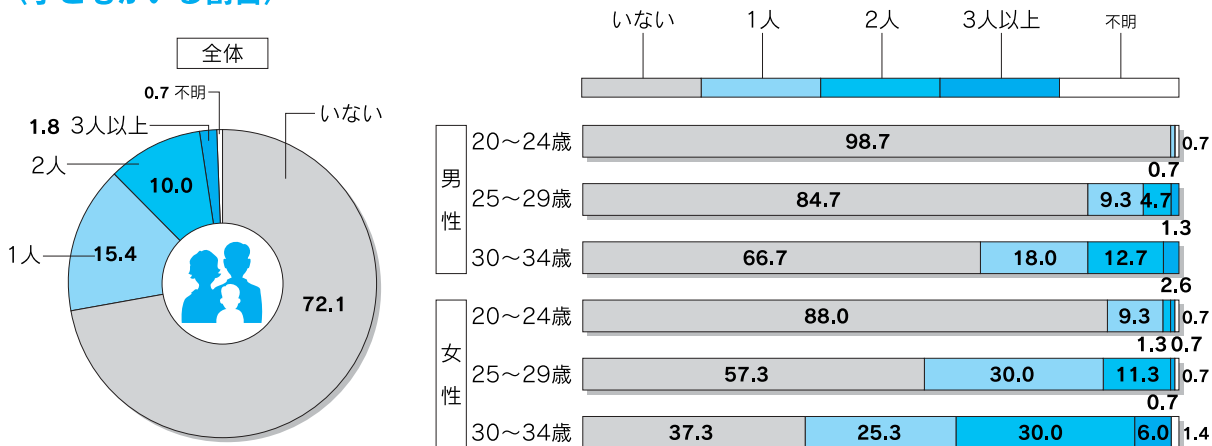
(※)フリーター/「パート・アルバイト」のうち既婚女性を除く

(単位:%)

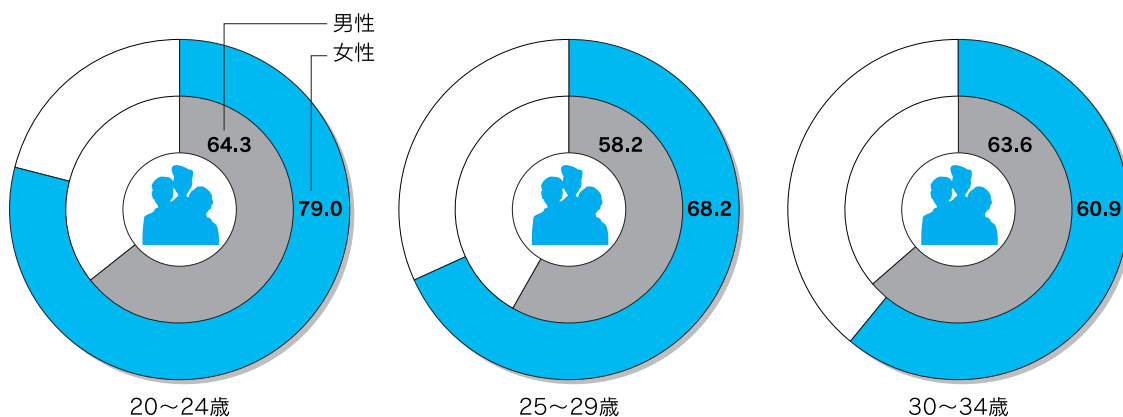
〈既婚者の割合〉



〈子どもがいる割合〉



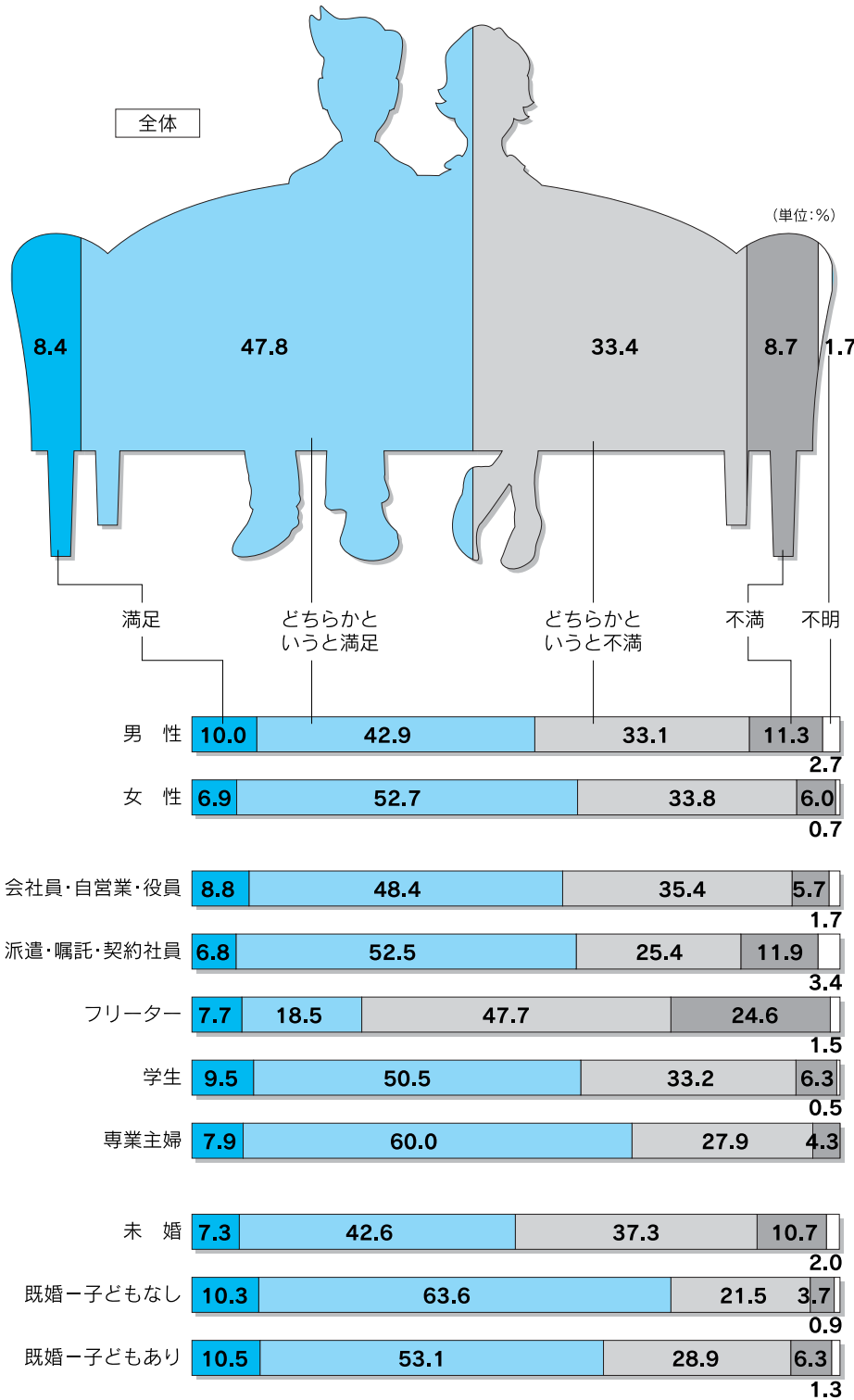
〈親と同居している独身社会人の割合〉



ヤング世代の暮らし

1-1 生活満足度

現在、あなたはご自身の「生活全体」にどの程度満足していますか。(SA)

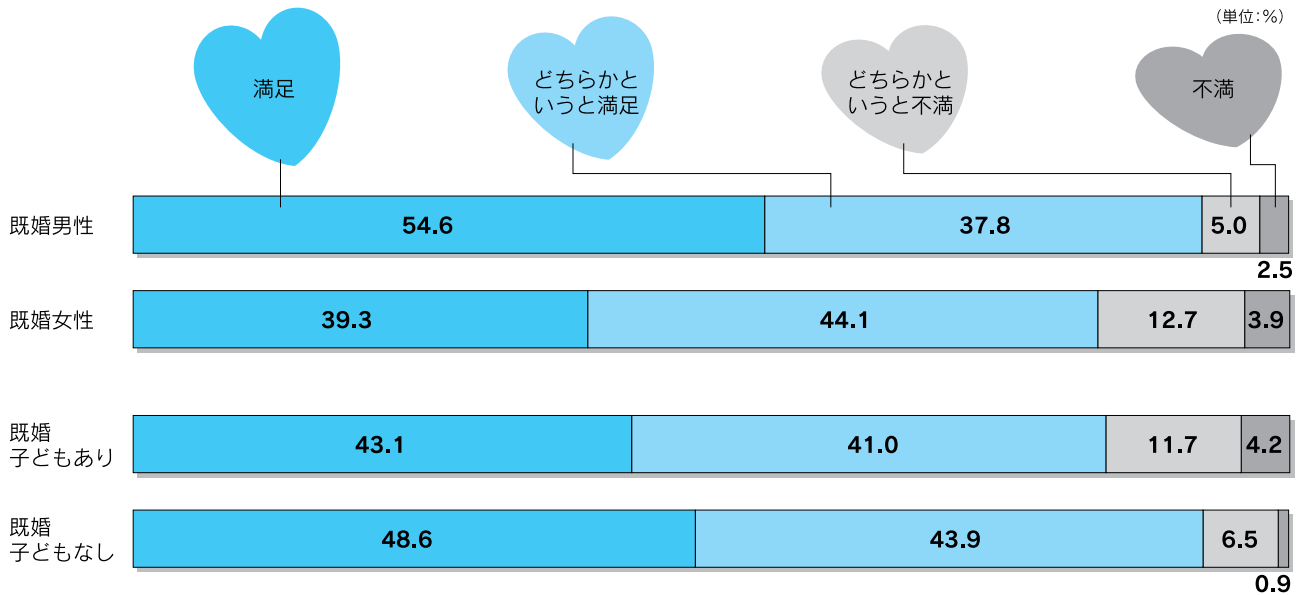


生活全体に対する満足度について尋ねたところ、「満足」「どちらかという満足」の合計(以下「満足計」)は56.2%。男性と女性を比べると、男性が52.9%、女性が59.6%で、女性のほうが若干多いものの、その差はわずかであった。しかし、就労別では大きな違いが見られた。フリーターの「満足計」は26.2%で最も少なく、専業主婦の67.9%に比べ40ポイント以上も及ばない結果となった。婚姻状態別で見ると、既婚者のほうが未婚者に比べて「満足計」が高い。そして、既婚者を「子どもの有無」で比較すると、「子どもなし」のほうが「子どもあり」に比べて10ポイント以上「満足計」が多い結果となった。

20〜34歳という年代は、非常に個人差が大きい年代だと思われる。3人の子どもを育てている人もいれば、まだ親に100%扶養されている人もいる。年収もゼロから500万円以上まで、千差万別である。それと異なる多様な環境の中で、彼らはどのような生活を送っているのだろうか。暮らしに対する満足度ゆとり、関心を持っていること、日々の楽しみなど、多方向から質問し、環境によって異なる点、同年代ゆえに共通する点をあぶりだしていきたい。

1-2 結婚生活に対する満足度

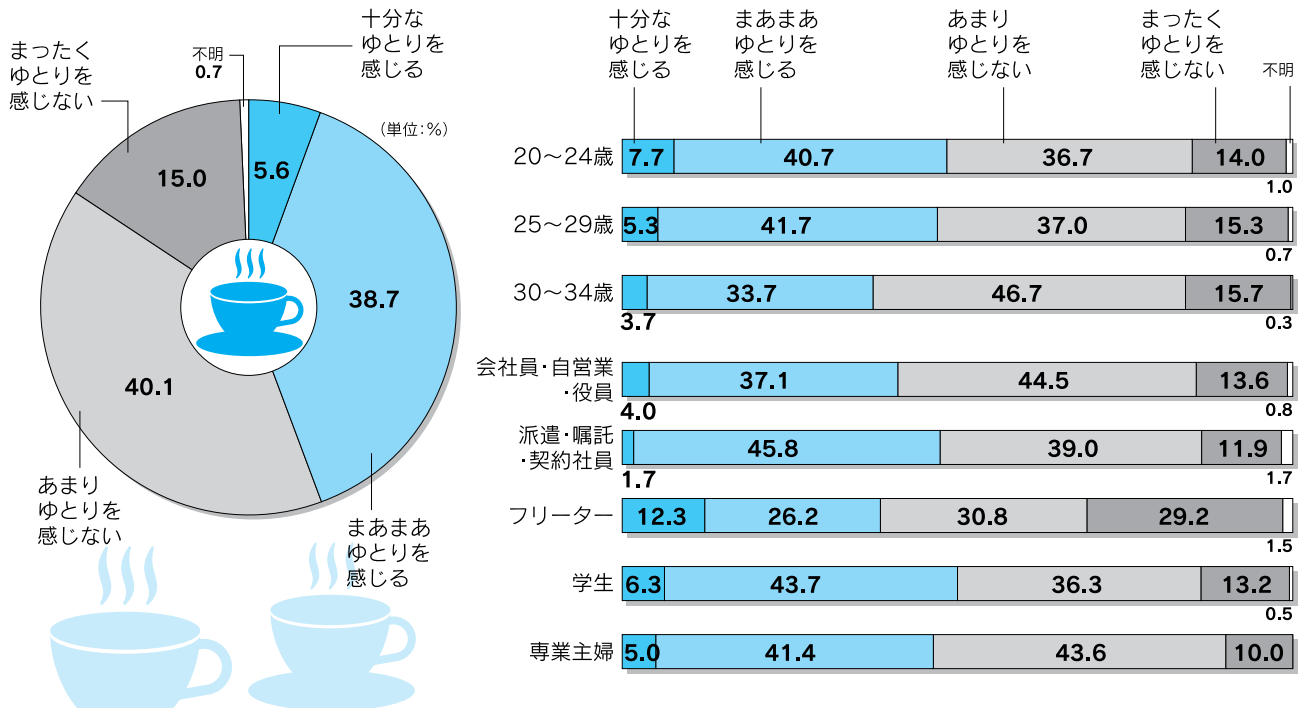
結婚生活にどの程度満足していますか。(SA)



結婚生活に対する満足度を尋ねたところ、「満足」「どちらかという満足」の合計が、男女ともに80%以上という高い結果となった。しかし、男女別に比較すると、「満足」と回答する人は、男性では54.6%、女性では39.3%で、女性のほうが15ポイント以上低い結果となった。また、「子どもの有無」で比較すると、「子どもなし」の「満足」は48.6%、「子どもあり」の「満足」は43.1%で、生活満足度と同様、結婚生活に対する満足度も、「子どもなし」のほうが「子どもあり」より高いという結果となった。

1-3 暮らしのゆとり

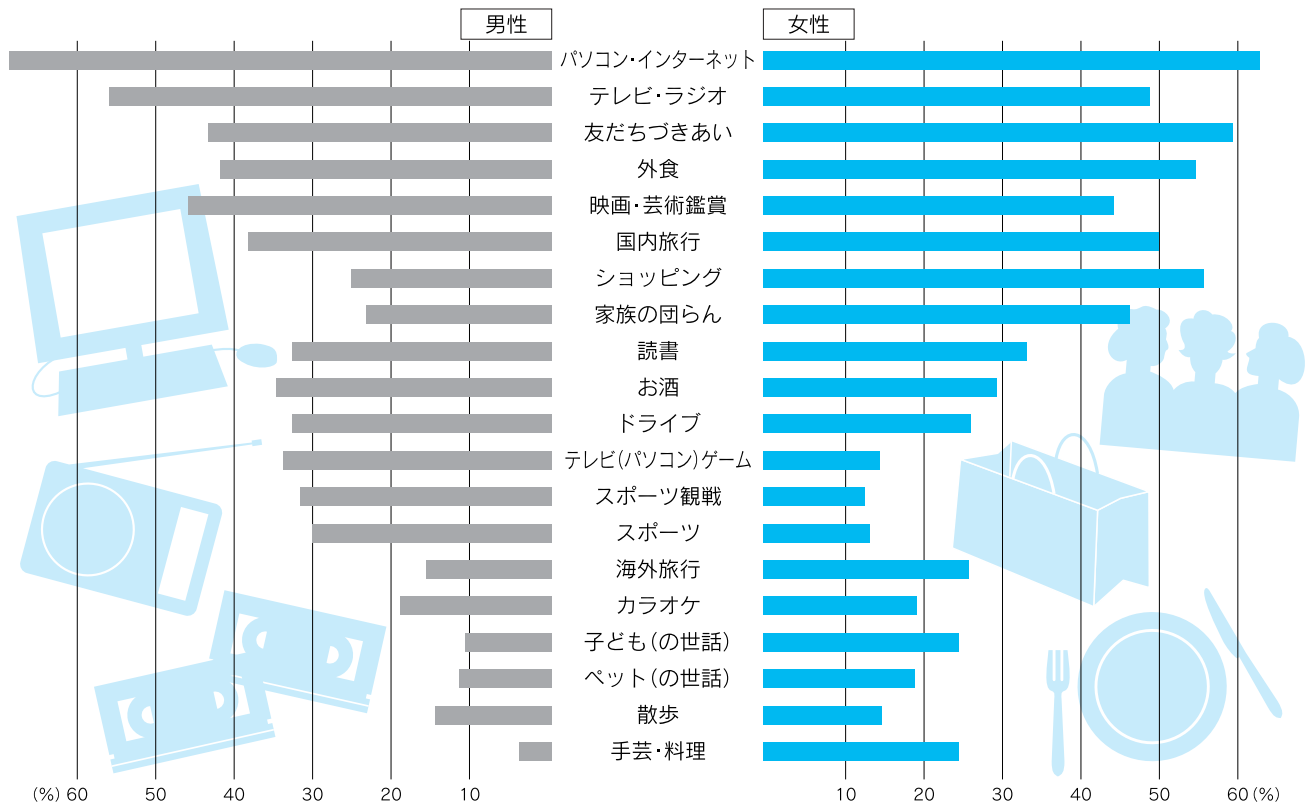
現在、あなたは暮らしにゆとりを感じていますか。(SA)



暮らしのゆとりについて尋ねたところ、「十分なゆとりを感じる」「まあまあゆとりを感じる」の合計(以下「ゆとり計」)は44.3%で、半数に満たない結果となった。年齢別で見ると、年齢が上がるにつれて、「ゆとり計」は減っていき、20代前半で48.4%だったのが、30代前半では37.4%にまで低下している。就労別で見ると、「学生」「派遣・嘱託・契約社員」が高く、「フリーター」が低い結果となった。フリーターは「十分なゆとりがある」と「まったくゆとりを感じない」という両極が最も多く、「ゆとり」の有無で二極化が起きていることが予想される。

1-4 現在の楽しみ

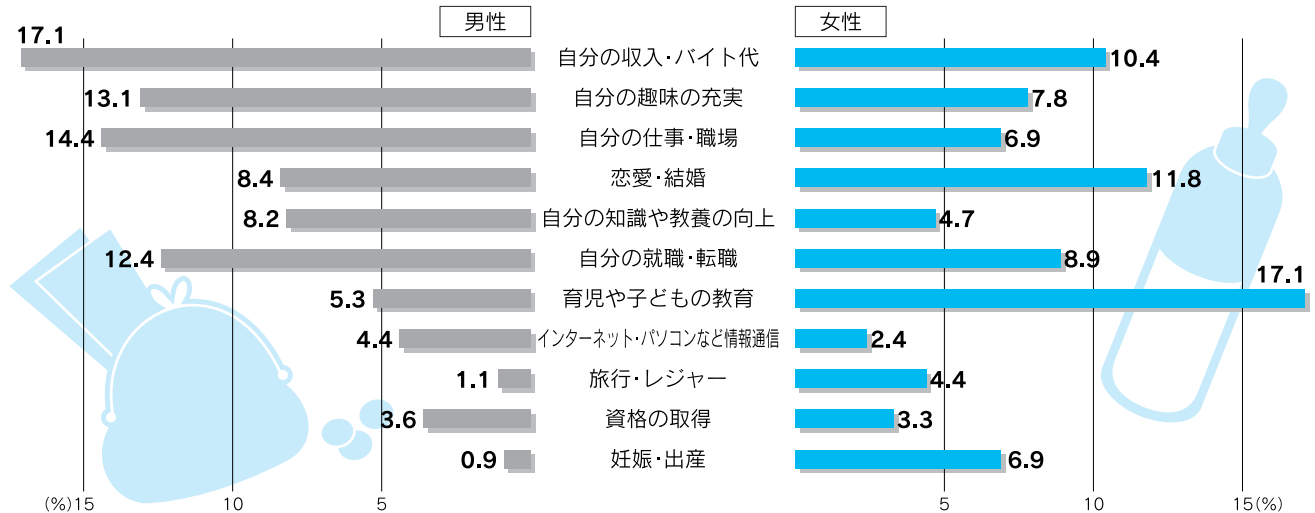
現在の暮らしの中で、あなたはどのようなことに楽しみを感じていますか。あてはまるものをすべて選んでください。(MA)



現在楽しみを感じていることについて尋ねたところ、男女ともに1位は「パソコン・インターネット」。2位以下に違いがあり、男性は2位「テレビ・ラジオ」、3位「映画・芸術鑑賞」、女性は2位「友だちつきあい」、3位「ショッピング」という結果になった。男性に高く、女性に低い項目としては、「テレビゲーム」「スポーツ観戦」「スポーツ」。一方、女性に高く、男性に低い項目としては、「ショッピング」「家族の団らん」「手芸・料理」などが挙げられる。

1-5 現在の関心事

現在、あなたが最も関心を持っていることはなんですか。(SA)



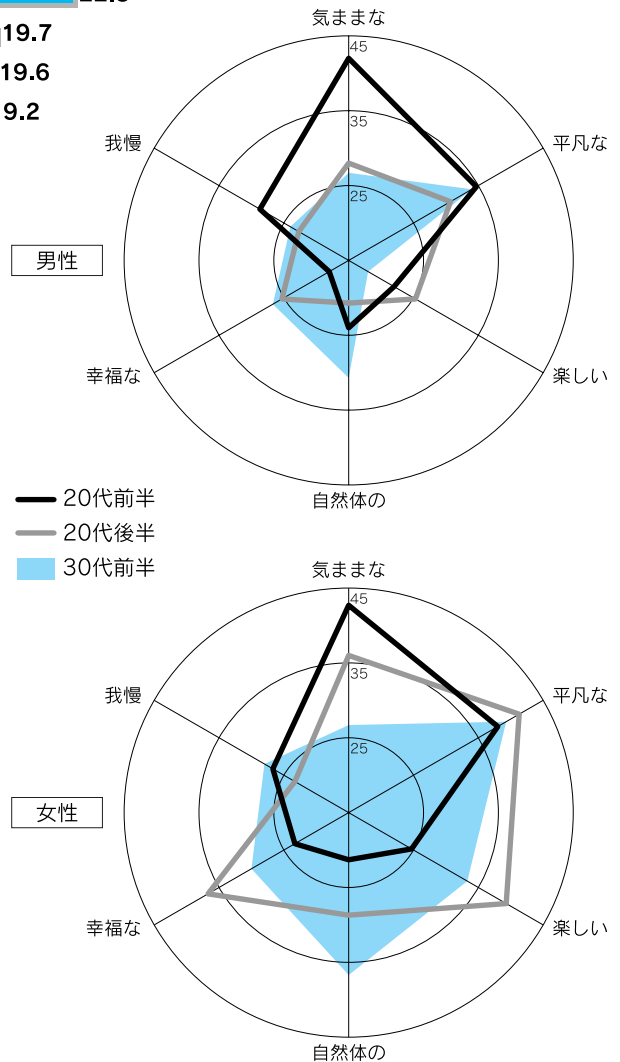
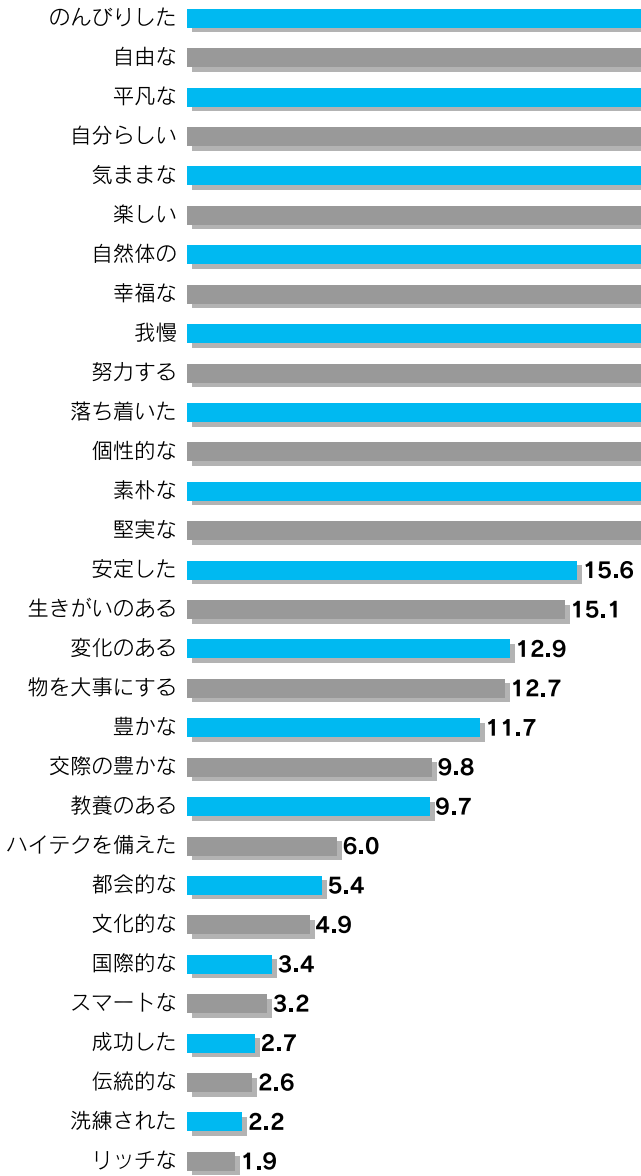
現在、最も関心を持っていることについて尋ねたところ、男女で大きな違いが表れた。男性の1位は「自分の収入・バイト代」、2位は「自分の仕事・職場」、女性の1位は「育児や子どもの教育」、2位は「恋愛・結婚」という結果になった。中でも、最も男女差が大きい項目は「育児や子どもの教育」で、女性が男性より11.8ポイント高く、次に差が大きいものは「自分の仕事・職場」で、男性が女性より7.5ポイント高い結果となった。男性は「仕事」を、女性は「家庭」を、主要な関心領域としていることがうかがわれる。

1-6

現在の生活のイメージ

現在のあなたの生活は、次のどのイメージに重なりますか。以下より、あてはまるものをすべて選んでください。(MA)

(単位:%)

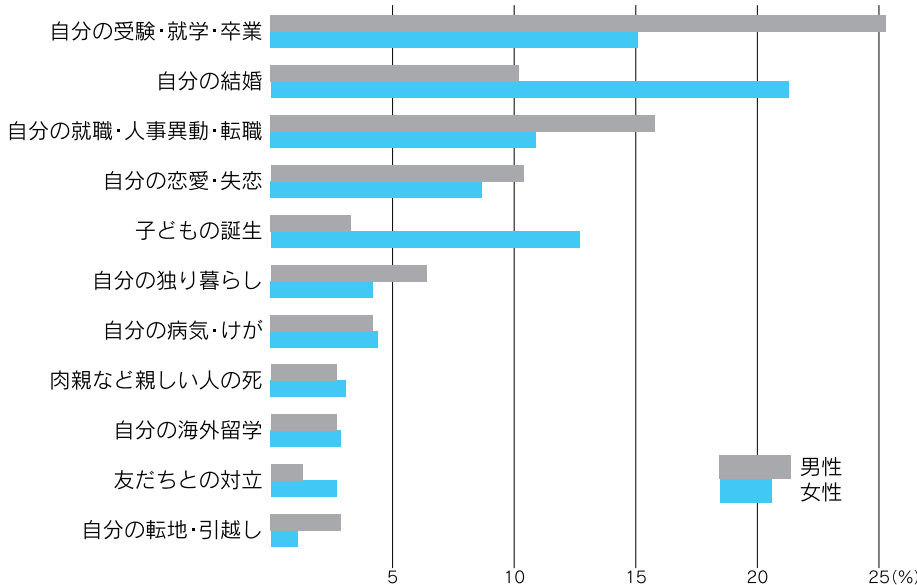


現在の生活のイメージについて尋ねたところ、「のんびりした」「自由な」「平凡な」「自分らしい」「気ままな」が上位5位を占めた。「自由な」「気ままな」という、束縛の少なさを表すイメージが高位に2つランクされていることが注目される。また、「平凡な」と「自分らしい」が僅差で高位を占めたことは、若者にとって「自分らしさ」と「平凡」が矛盾するものではないことを示しているようにも思われる。いくつかの項目を男女年齢別に比較すると、「平凡な」「楽しい」「幸福な」が女性にとくに高いことが分かる。男性は、年齢が上がるにつれて「楽しい」が急激に減少する。



2-1 人生の転機について

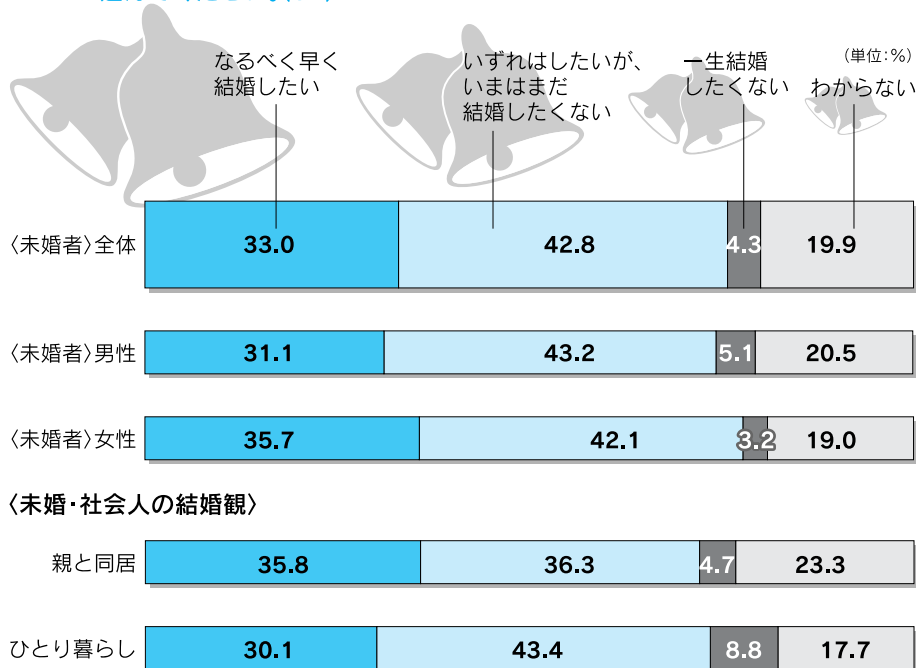
これまでの人生を振り返り、あなたが最も大きな転機だったと思うことはなんでしょうか。(SA)



「人生の転機」について尋ねたところ、男性の1位は「自分の受験・就学・卒業」、2位は「自分の就職・人事異動・転職」、3位は「自分の恋愛・失恋」。女性の1位は「自分の結婚」、2位は「自分の受験・就学・卒業」、3位は「子どもの誕生」。男女で大きな差が出たのは「子供の誕生」と「自分の結婚」だった。

2-2 未婚者の結婚観

あなたの結婚に対する希望をおうかがいします。あてはまるものを1つ選んでください。(SA)



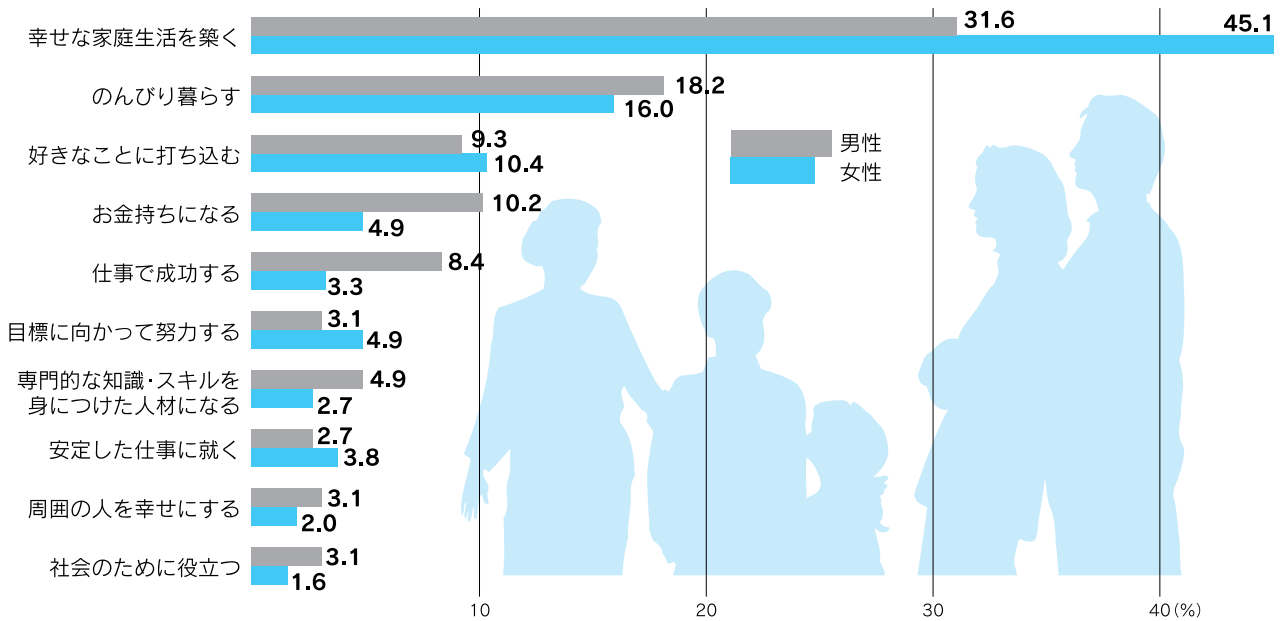
未婚者に「結婚」に対する考え方を尋ねたところ、「いずれはしたいが、いまはまだ結婚したくない」(42.8%)が「なるべく早く結婚したい」(33%)を上回る結果となった。男女別に比較すると、女性のほうが男性よりも4ポイントほど「なるべく早く結婚したい」が多い結果となった。また、未婚の社会人の結婚観を、親との同居の有無で比較すると、「親と同居している人」のほうが「同居していない人」より「なるべく早く結婚したい」が多く、俗にいう「パラサイト・シングル」のほうが「非パラサイト」よりも、結婚願望が強いという結果となった。

ヤング世代の
いままで「と」「これから」

2003年、厚生労働省の試算によると、男性の平均寿命は78.3歳、女性の平均寿命は85.2歳。これに照らせばヤング世代の20〜34歳という年齢は、まだまだ寿命の半分にも達しない年齢である。これから先の長い未来を、彼らはどのように展望しているのだろうか。また彼らは、これまで生きてきた20〜34年の人生をどのようにとらえているのだろうか。彼らが「人生の転機」と思っていること、未婚者の「結婚」に対する考え方、理想の生き方や将来の夢、不安の有無、そしてその実現可能性などに注目し、彼らの人生観を探ってみたい。

2-3 理想の生き方

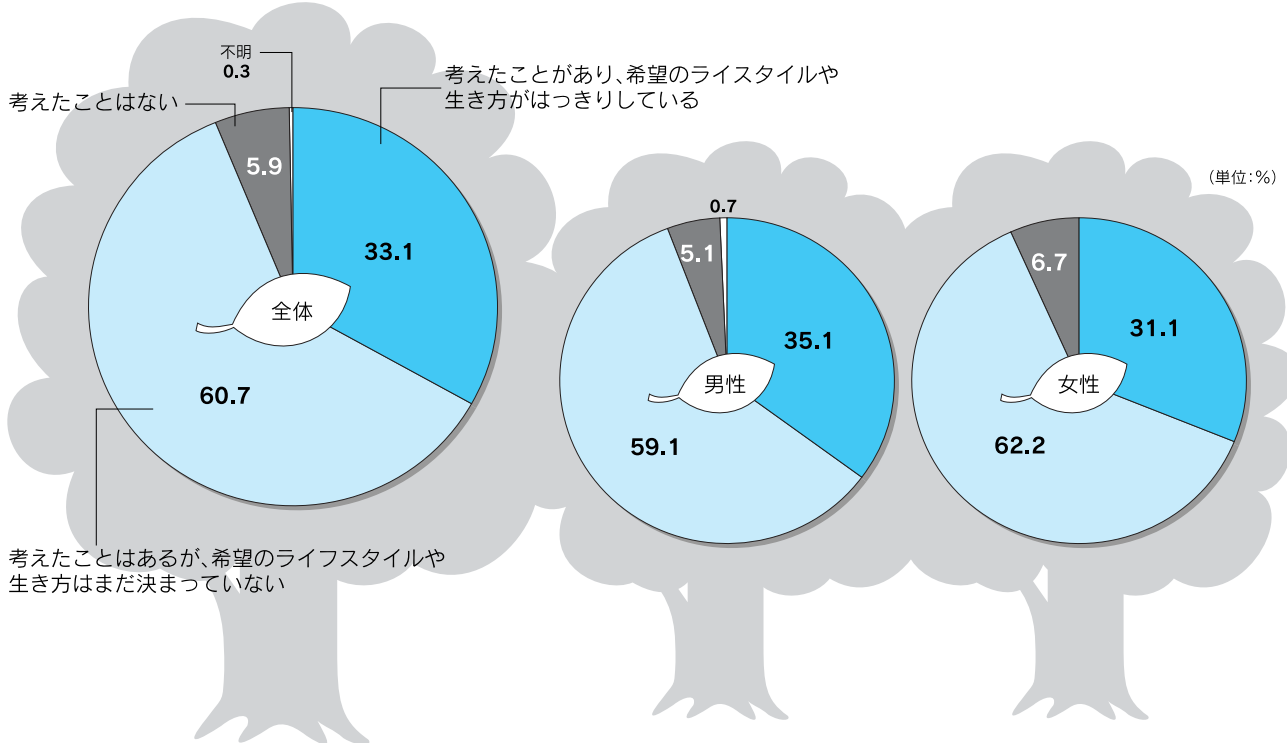
あなたはどのような生き方を理想としていますか。以下の中から、最もあてはまるものを1つ選んでください。(SA)



理想の生き方について尋ねたところ、男女ともに1位は「幸せな家庭生活を築く」、2位は「のんびり暮らす」という結果になった。とくに女性に関しては、半数近くが「幸せな家庭生活を築く」を挙げており、これが圧倒的な1位となった。それ以外に男女で差が大きいのは、「お金持ちになる」「仕事で成功する」で、これらを挙げる人は男性に多く、女性には少ない結果となった。

2-4 希望のライフスタイル

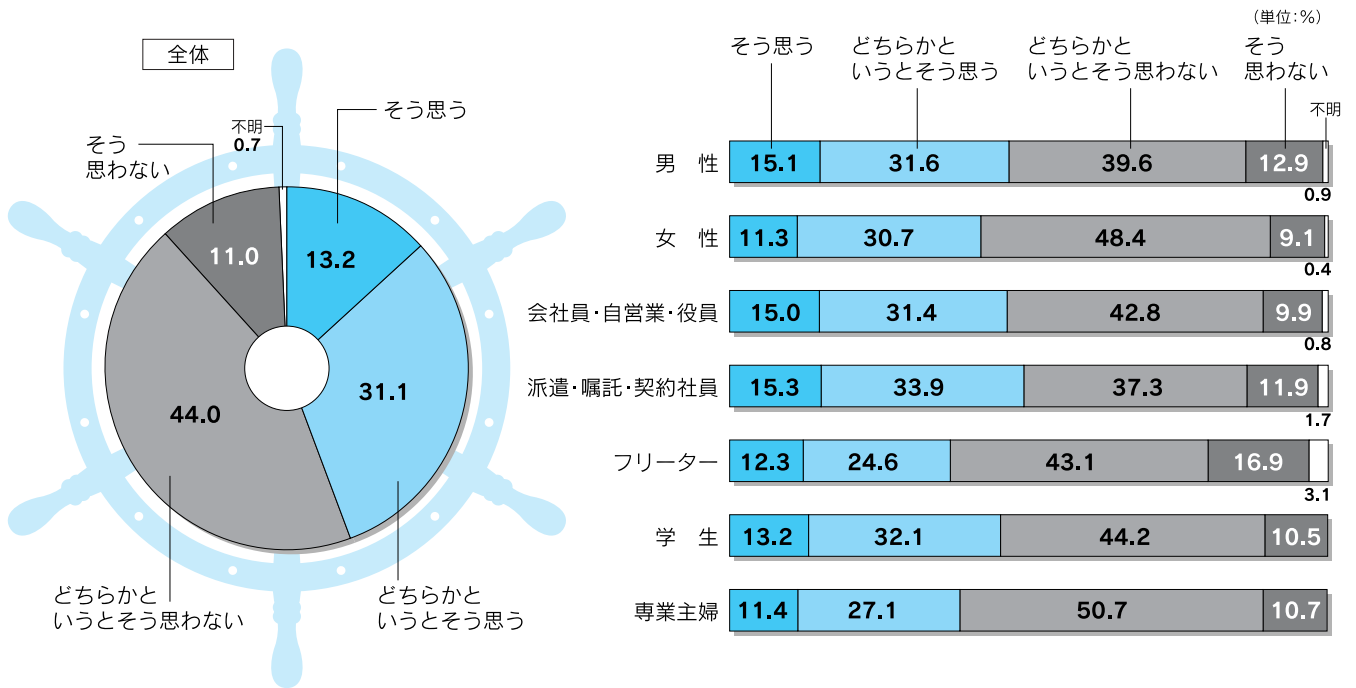
これまでに、どのような生き方、ライフスタイルが自分に合っているか考えたことがありますか。(SA)



希望する生き方やライフスタイルについて、考えたことがあるか、また、決まっているかどうかを尋ねたところ、「考えたことがない」人は5.9%に過ぎず、全体の90%以上が「考えたことがある」、という結果になった。しかし、その内容がはっきり決まっている人は33.1%で、決まっていない人(60.7%)の約半数に過ぎないことが分かった。男女別で見ると、男性のほうが女性より「決まっている」人が多いものの、その差はわずか4ポイントで、男女に大きな違いは見られなかった。

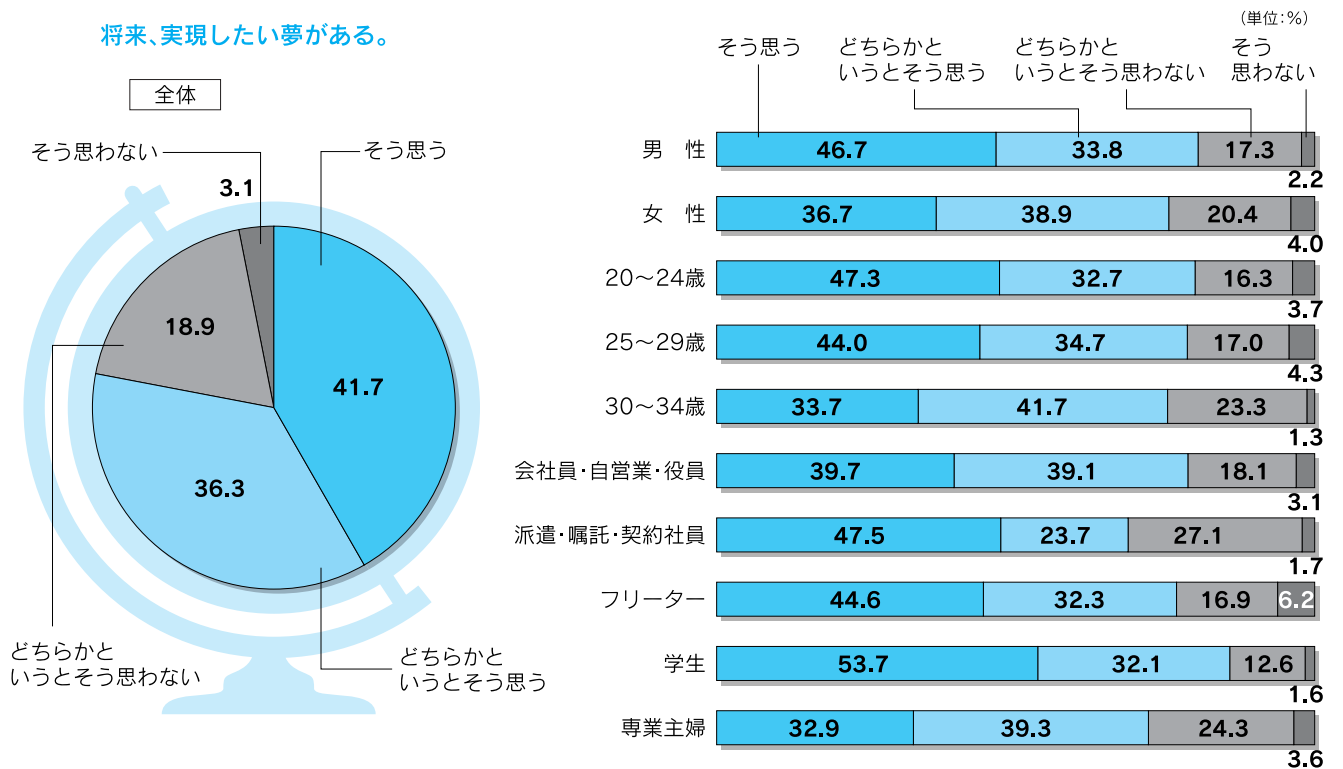
2-5 若くても方向性は定めるべきか？ 夢はあるのか？

若いうちはまだ生き方の方向性を定めないほうがいい。



「若いうちはまだ生き方の方向性を定めないほうがいい」に対する意見を尋ねたところ、「そう思う」「どちらかというと思う」の合計(以下「そう思う計」)は44.3%で半数に満たず、半数以上が「若くても生き方を定めたほうがいい」と思っていることが明らかになった。男女別で見ても大きな違いは見られなかったが、就労別ではフリーターの「そう思う計」が36.9%で際立って少なく、彼らが最も「若いから方向性を定めない」という生き方に否定的である、ということが分かった。

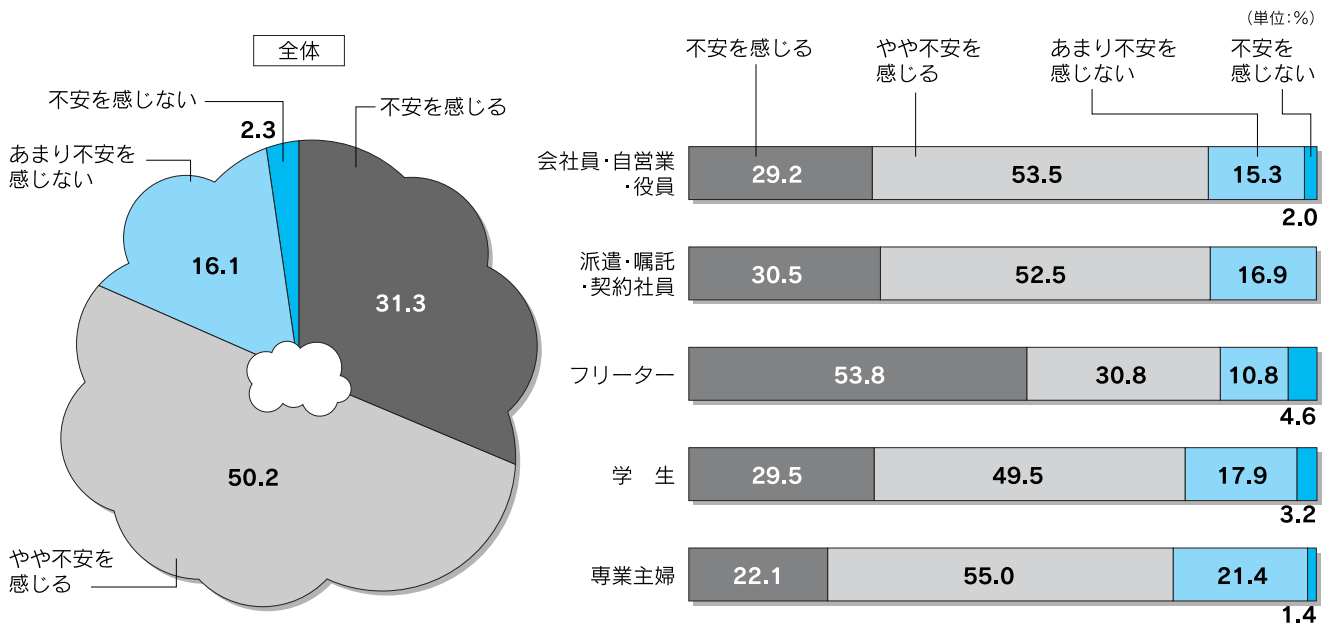
将来、実現したい夢がある。



「将来実現したい夢があるか」について尋ねたところ、「そう思う」「どちらかというと思う」の合計(以下「そう思う計」)は78%で、全体の8割近くが夢を持っているという結果になった。男女別では、男性のほうが女性よりも「そう思う計」が多く、年齢別では年齢が上がるにつれて「そう思う計」が少なくなる。就労別では、学生が最も「そう思う計」が多く、派遣・嘱託・契約社員が最も少ない結果となった。

2-6 10年後の生活の不安

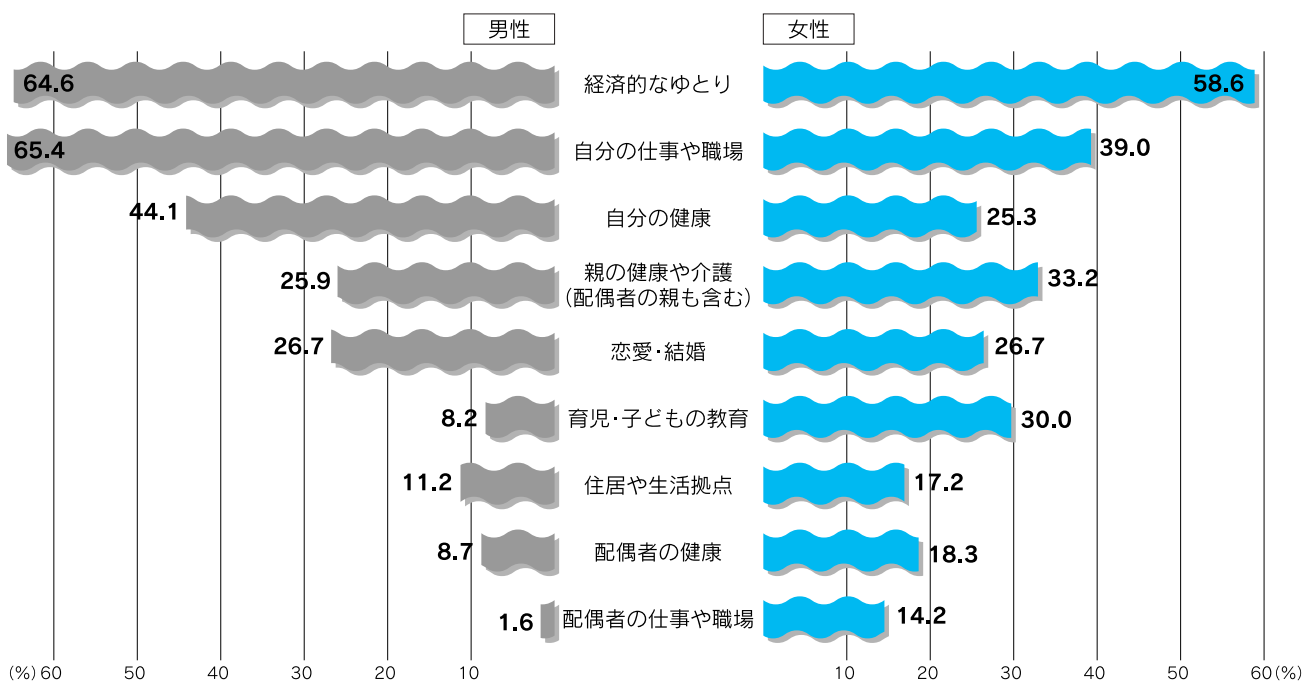
10年後のあなたの生活について、どの程度不安を感じますか。(SA)



10年後の生活の不安について尋ねたところ、「不安を感じる」「やや不安を感じる」の合計(以下「不安計」)は81.5%で、8割を超える結果となった。就労別に見ると、「不安を感じる」が最も多いのは「フリーター」(53.8%)で、最も少ないのは「専業主婦」(22.1%)である。ただし、フリーターに関しては、「不安を感じる」が多いだけでなく、その対極の「不安を感じない」も最も高かった。

2-7 不安に思うこと

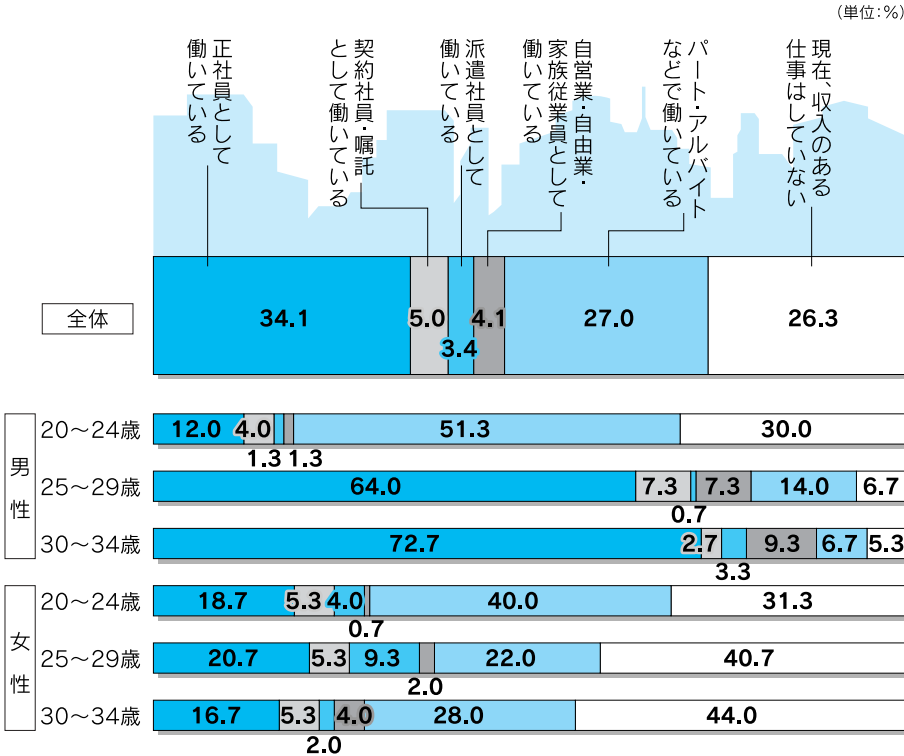
不安に思うことについて、3つまで選んでください。(LA3)



「不安に思う」内容について尋ねたところ、男性は1位が「自分の仕事や職場」、2位が「経済的なゆとり」、3位が「自分の健康」で、女性は1位が「経済的なゆとり」、2位が「自分の仕事や職場」、3位が「親の健康や介護」という結果になった。男性は「自分の仕事・職場」と「経済的なゆとり」に不安が集中しているが、女性は「自分の仕事や職場」の不安が少ない分、「親の健康や介護」「育児・子どもの教育」「住居や生活拠点」「配偶者の健康」「配偶者の仕事や職場」など不安の種が多岐にわたっている。

3-1 就業状態

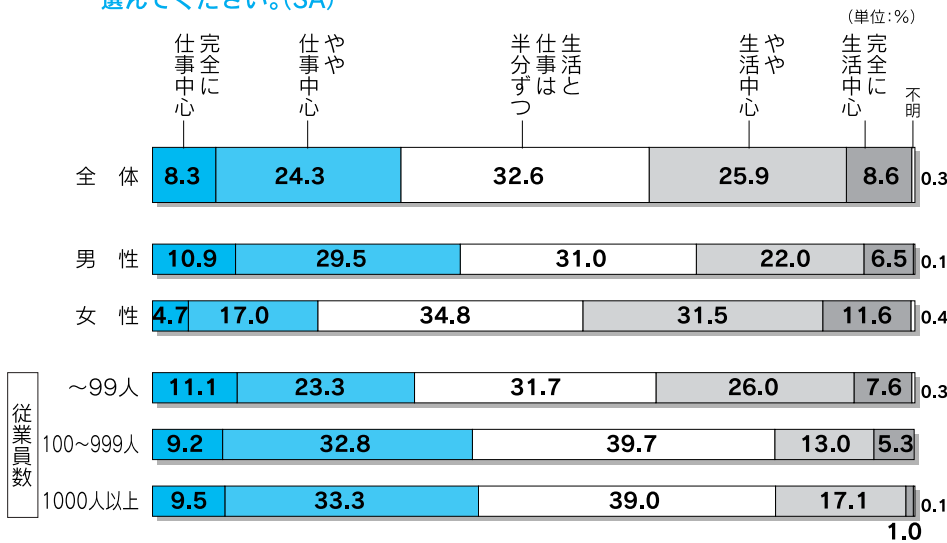
現在、収入のある仕事やアルバイトをしていますか。(SA)



現在の仕事やアルバイトの状況について尋ねたところ、ヤング世代には「正社員として働いている」「パート・アルバイトなどで働いている」「現在収入のある仕事はしていない」という3つの大きなグループがあることがわかった。ただし、男女で大きな差があり、男性は25歳以降、「正社員」が急激に増加し、30歳以降は7割以上が「正社員」という状態になるが、女性は何の年齢層でも「正社員」が3割を超えることはなく、「パート・アルバイト」と「収入のある仕事をしていない」の合計がつねに6割以上を占める。とくに「収入のある仕事をしていない」は年齢が上がるにつれて増加し、30歳を超すと44%と半数近くを占めるようになる。

3-2 仕事と生活のバランス

現在の仕事と個人生活のバランスについて、最もあてはまるものを選んでください。(SA)

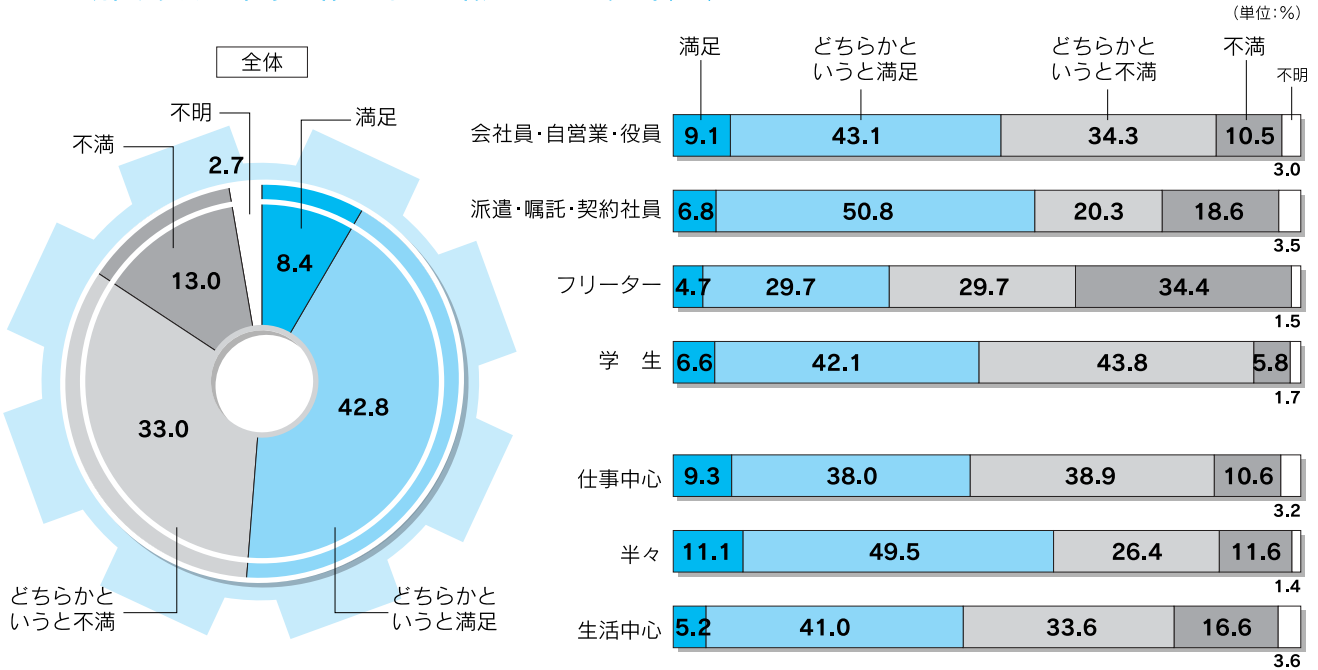


仕事と個人生活のバランスについて尋ねたところ、「完全に仕事中心」「やや仕事中心」の合計が32.6%、「仕事と生活は半々」が32.6%、「完全に生活中心」「やや生活中心」の合計が34.5%で、仕事中心よりも生活中心がわずかに多いという結果となった。男女別に見ると、男性のほうが「仕事中心」が多く、事業規模別で見ると、従業員数が多いほど「仕事中心」が多い。

これまでに紹介したアンケート調査の結果によると、ヤング世代の「仕事」や「収入」に対する関心は非常に高い。「最も関心があること」で「自分の収入・バイト代」は全体で1位を占め、不安の内容では「自分の仕事や職場」「経済的なゆとり」が1、2位を占めた。また、現在の生活に対する「満足度」や「ゆとり」「将来の「不安」や「夢」などを尋ねると、就労状態によって大きな違いが見られた。これらを踏まえて、彼らの「仕事」の実態を多方面から探っていききたい。

3-3 仕事生活の満足度

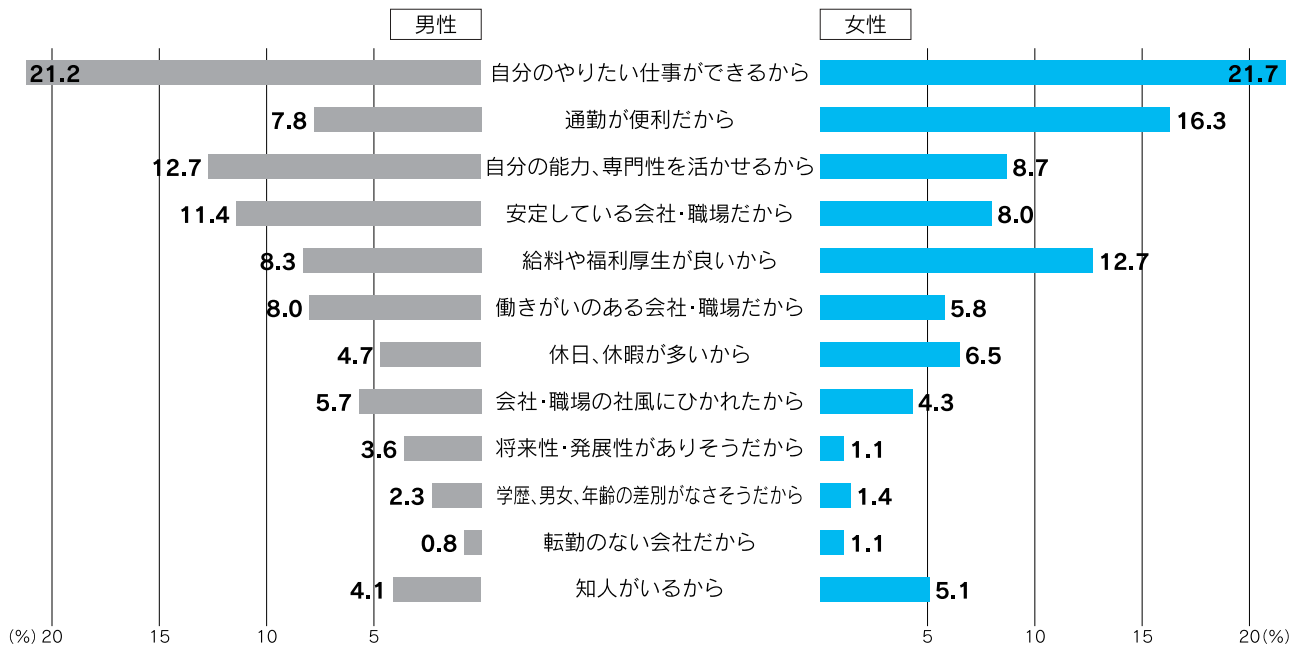
現在、あなたは仕事生活にどれほど満足していますか。(SA)



仕事生活に対する満足度について尋ねたところ、「満足」「どちらかという満足」の合計(以下「満足計」)は51.2%で、ほぼ半数という結果になった。就労別で見ると、最も「満足計」が多いのは「派遣・嘱託・契約社員」(57.6%)、最も少ないのは「フリーター」(34.4%)で、その差は20ポイント以上に及ぶ。「仕事と生活のバランス」別で比べると、「仕事と生活は半々」が最も「満足計」が多い。「仕事中心」と「生活中心」で比べると、「仕事中心」のほうがわずかに満足度が高いものの、その差はわずか1.1%である。

3-4 仕事・会社の選択理由

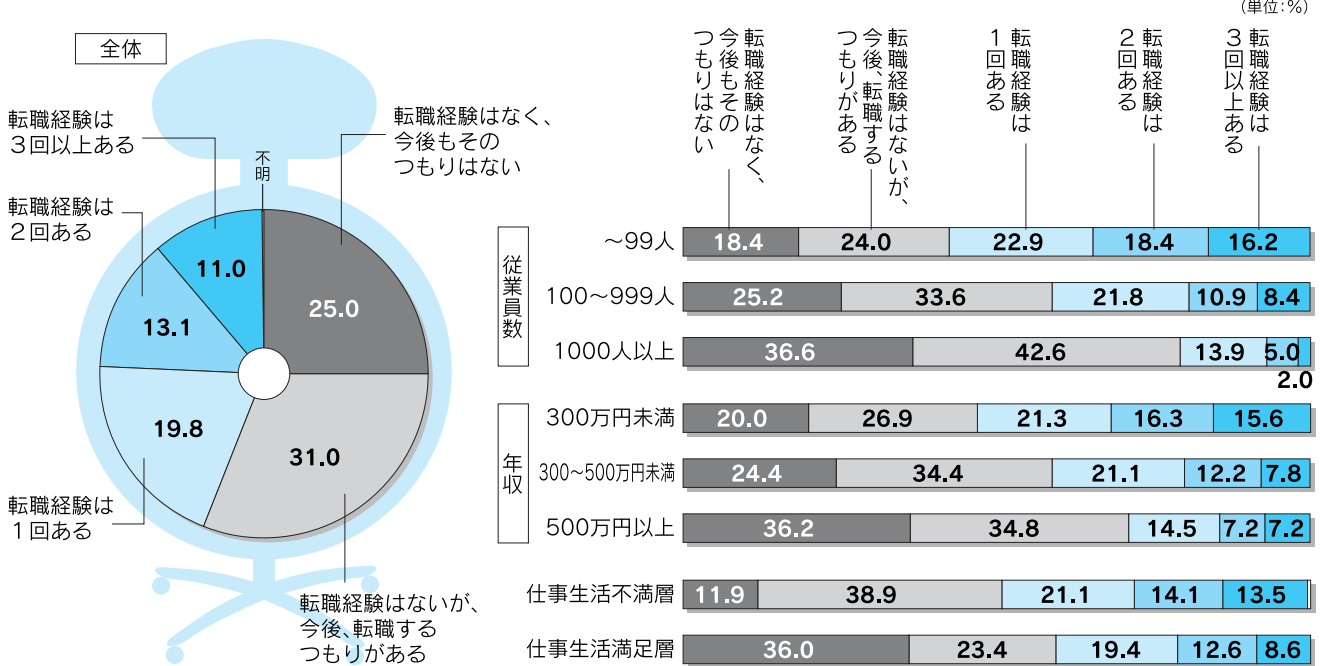
いまの仕事、会社を選んだ理由について、最もあてはまるものを挙げなさい。(SA)



いまの仕事、会社を選んだ理由について尋ねたところ、男女ともに「自分のやりたい仕事ができるから」が1位となった。2位以下では、男女に若干違いが見られた。男性に高く女性に低い項目は、「自分の能力、専門性を活かせるから」「安定している会社・職場だから」「会社・職場の社風にひかれたから」など、仕事や会社の内容や自分の能力にかかわる項目であり、逆に女性に高く男性に低い項目としては「通勤が便利だから」「給料や福利厚生が良いから」「休日休暇が多いから」「知人がいるから」など、仕事の内容ではなく処遇や人間関係にかかわる項目で、男性と女性の選択基準の違いがうかがわれる結果となった。

3-5 転職に対する意識

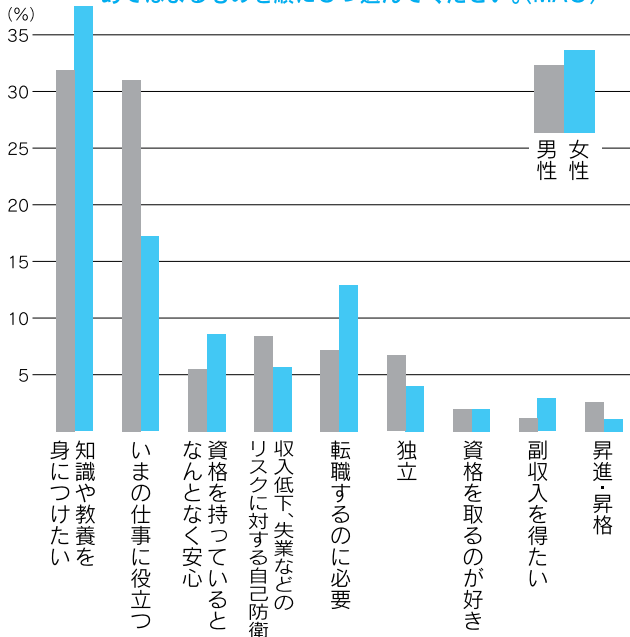
転職したことがありますか。(SA)



転職に関して尋ねたところ、「転職経験がある人」は43.9%で、働いているヤング世代のうち半数弱が転職経験者、という結果になった。そして、「転職経験のない人」のうち、「今後転職するつもりがある人」は「つもりがない人」より若干多い。「転職経験がない」人は、事業規模が大きいほど多く、年収が高いほど多い。「仕事満足度」別に見ると、仕事満足度が高い人は「転職志向」が低く、仕事満足度が低い人は「転職志向」が高い、という結果になった。

3-7 資格取得の理由

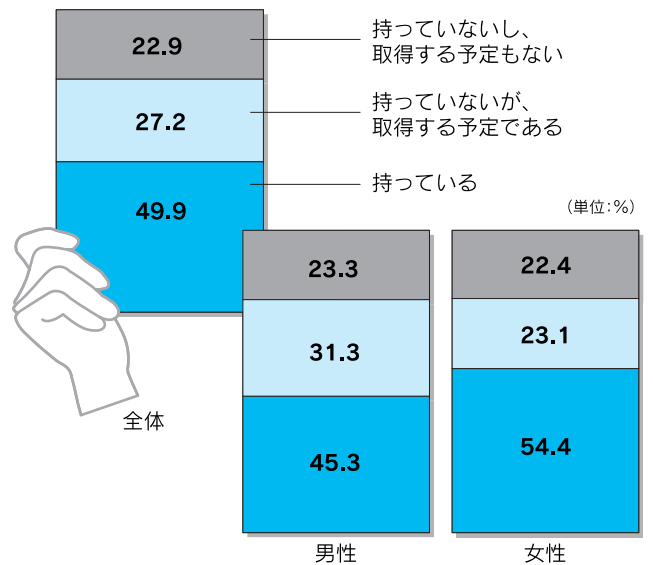
あなたが資格を取得した(しようとする)理由について、あてはまるものを順に3つ選んでください。(MA3)



資格取得の理由について尋ねたところ、男女ともに1位は「知識や教養を身につけたい」となった。相対的に見て男性に高く女性に低い項目は、「いまの仕事に役立つ」「収入低下、失業などのリスクに対する自己防衛」で、女性に高く男性に低い項目は、「知識や教養を身につけたい」「転職するのに必要」「資格を持っているとなんとなく安心」という結果になった。

3-6 資格に対する意識

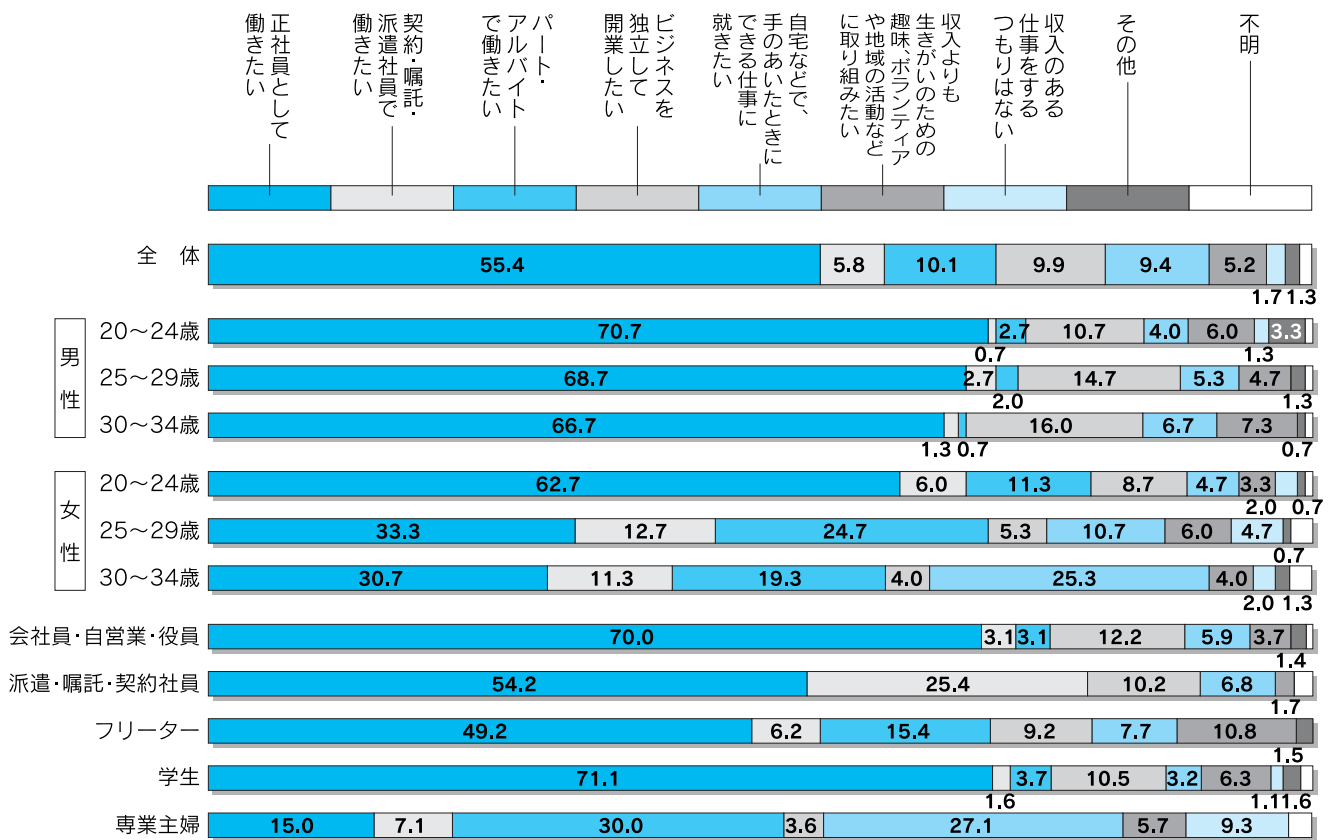
社会で一般的に通用するような資格を持っていますか。(SA)



資格について尋ねたところ、「持っている」と回答した人は全体の49.9%で、ヤング世代のほぼ半数は資格を持っている、ということが分かった。持っていない人の中でも、「取得する予定」の人が、「取得する予定がない」人を上回る結果となった。男女で比較すると、男性よりも女性のほうが資格を持っている人が多い。しかし、資格を持っていない人の意向を男女で比較すると、女性のほうが「取得する予定」の人が多い。つまり、女性のほうが資格を持っている人は多いが、持つつもりがないという人も多い、という結果になった。

3-8 今後5年の仕事に対する考え方

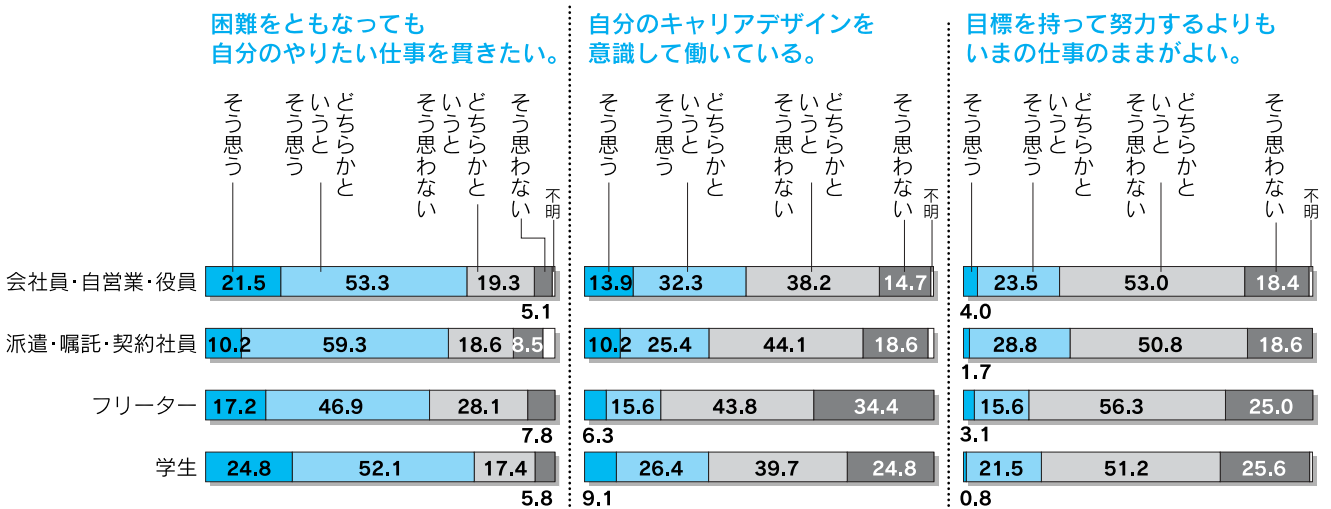
今後5年くらいあなたの仕事や働き方に対する考えについて、最も近いものを選んでください。(SA) (単位:%)



今後5年の仕事に対する希望について尋ねたところ、「正社員」が55.4%で、2位の「パート・アルバイト」を40ポイント以上引き離し、圧倒的な1位となった。男性は「正社員」志向がとくに高い。どの年代でもつねに6割以上を占めるが、年齢が上がるにつれ少しずつ低下し、代わって「ビジネスを独立して開業したい」が増加している。女性は、20代前半では「正社員」が最も多いが、20代後半から約半数に減少し、代わって「パート・アルバイト」「自宅で手のあいたときにできる仕事」が増加していく。「派遣・嘱託・契約社員」と「フリーター」の回答を見てみると、それぞれいまの就労形態より「正社員」になることを希望する人のほうが多い。

3-9 働き方に対する意識

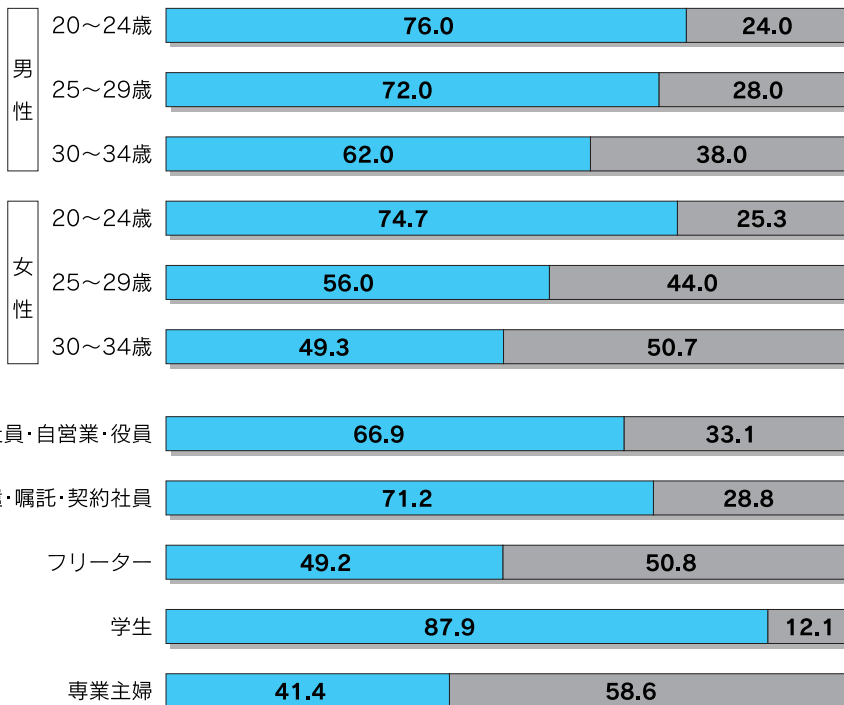
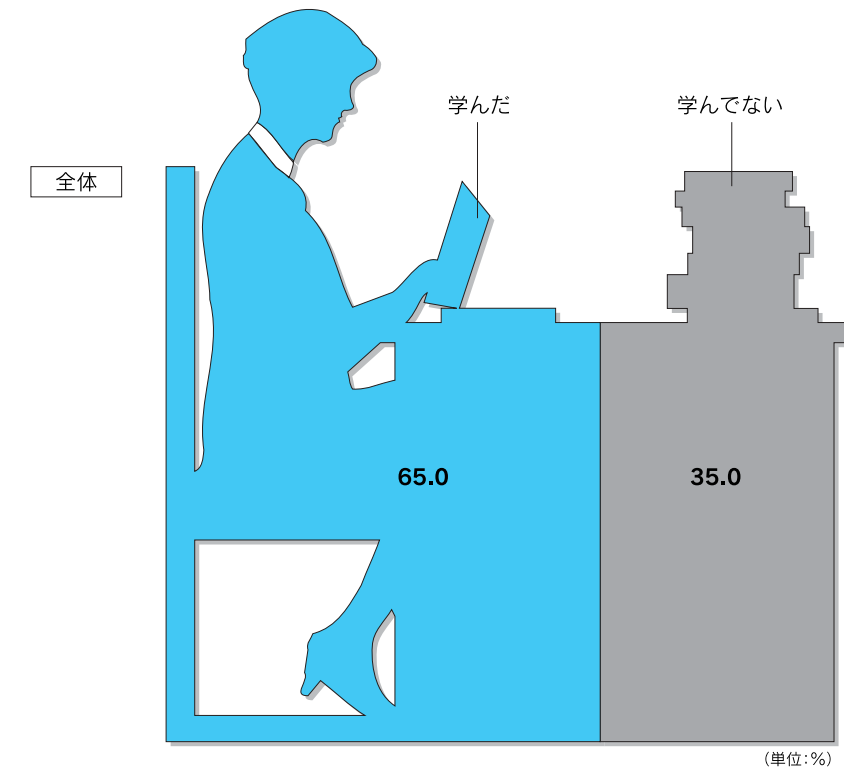
(単位:%)



働き方に関する意識について尋ねたところ、「困難をとんでも自分のやりたい仕事を貫きたい」と、「自分のキャリアデザインを意識して働いている」は、いずれも「フリーター」が最も低い結果となった。一見、フリーターの仕事に対する意欲は非常に低いように思われるが、「目標を持って努力するよりも今の仕事のほうがよい」と思っている人は、「フリーター」が最も少ない結果となった。

4-1 学びの有無

あなたはこの1年間で、自分のために学ぶ活動を行いましたか。(SA)

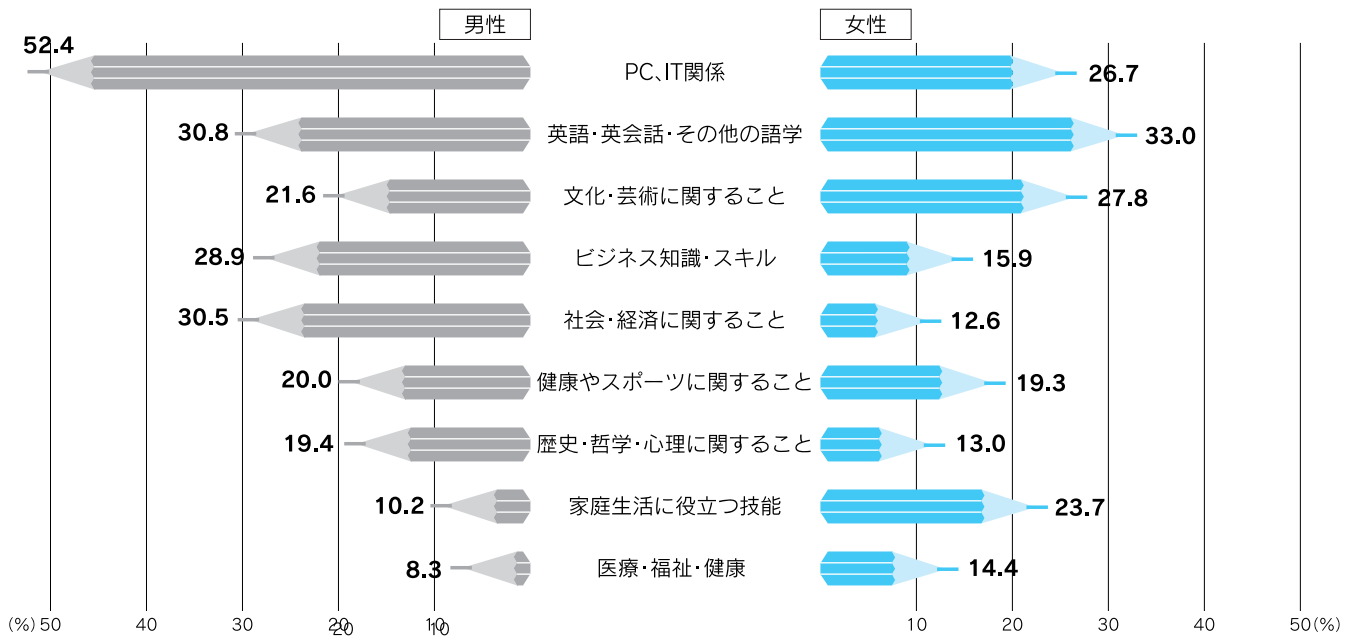


この1年間で学ぶ活動をしたという人の比率(以下「学び率」)は65%で、ヤング世代の約3人に2人が、1年間でなんらかの学び活動を行っているという結果になった。年齢別に見ると、男女ともに年齢が上がるにつれて「学び率」は減少している。就労別で見ると、最も学び率が高いのは、「学生」(87.9%)で、「派遣・嘱託・契約社員」(71.2%)、「会社員・自営業・役員」(66.9%)が続き、そこから約20ポイント低く、「フリーター」(49.2%)、「専業主婦」(41.4%)という結果となった。

いままでに紹介したアンケート結果によると、ヤング世代が「学び」に寄せる関心はさほど高くはないようだ。「最も関心があること」として、「自分の知識や教養の向上」を選ぶ人は男女ともに1割以下であった。しかし、資格を持っている人、持っていないが取得しようと思っている人は全体の77.1%を占め、資格取得のための学びに対しては、積極的である。この章では、そのようなヤング世代が「学び」をどのようにとらえているのか、具体的に見ていきたい。

4-2 学びの内容

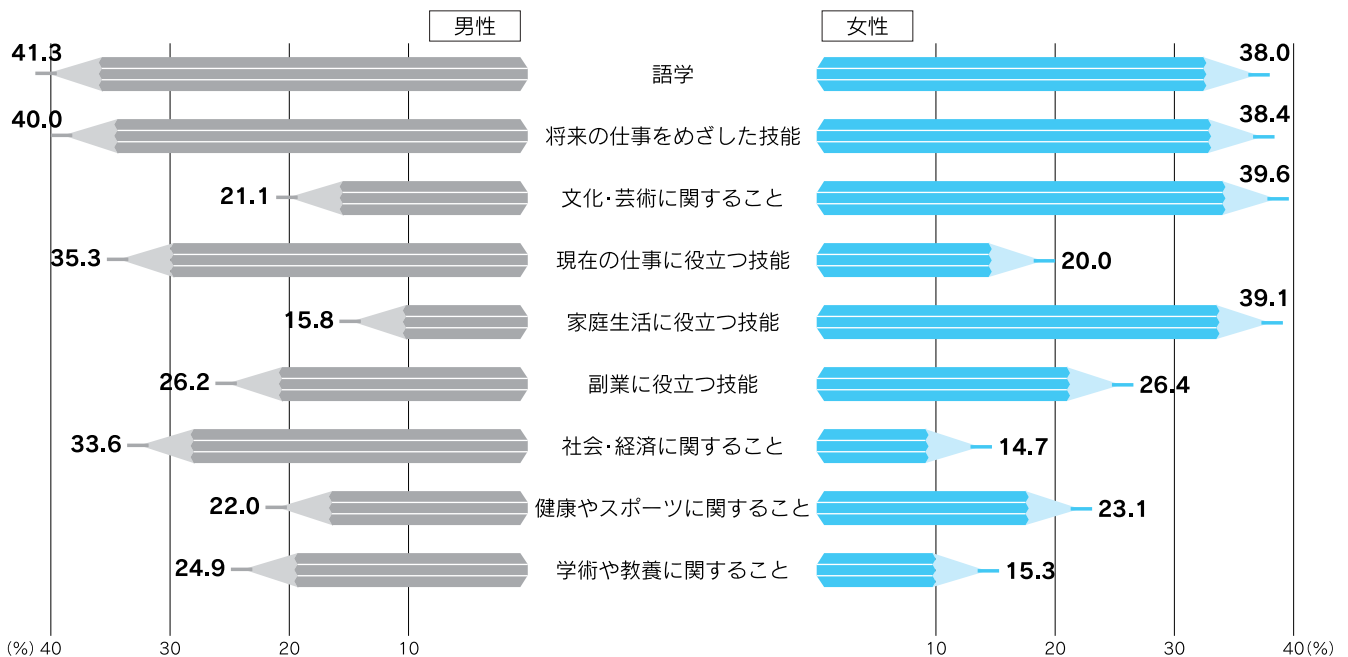
この1年間に学ぶ活動としてどのようなことを行いましたか。(MA)



学んだ内容について尋ねたところ、男女で大きな違いが見られた。男性は「PC、IT関係」が圧倒的に多く、約20ポイント低いところで「英語・語学」、「社会・経済」「ビジネス知識・スキル」が続くが、女性は「英語・語学」が最も多く、僅差で「文化・芸術」「PC、IT関係」「家庭生活に役立つ技能」が続く結果となった。

4-3 これから学びたいこと

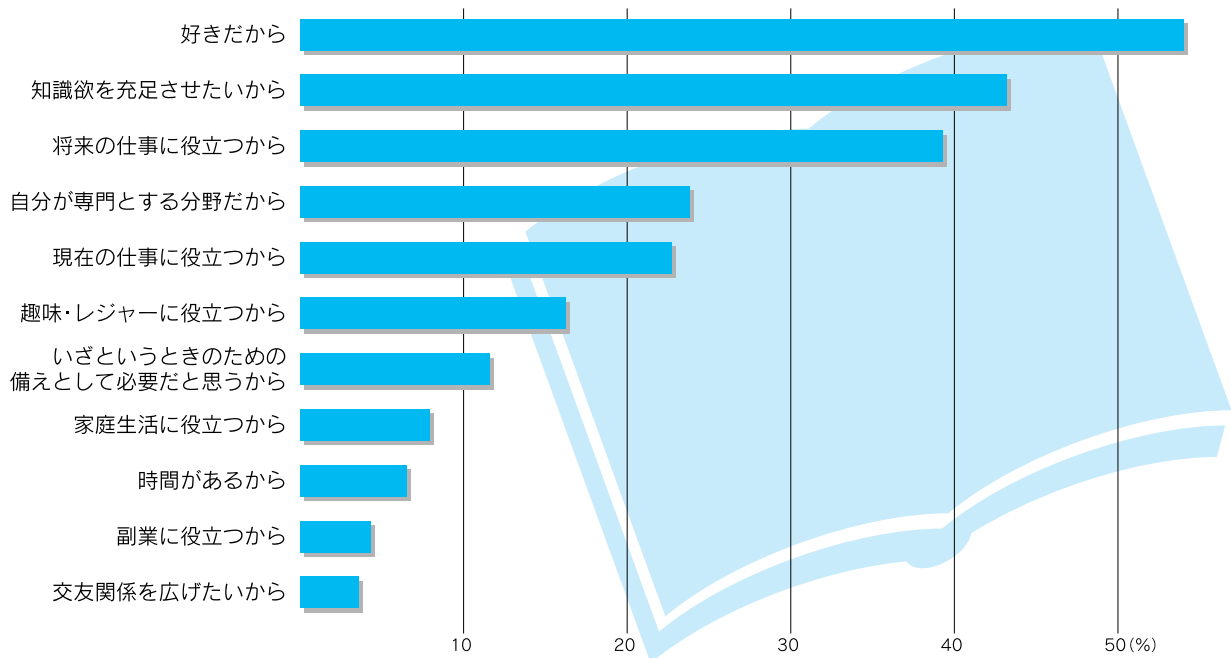
あなたはこれから学ぶとしたら、なにを学びたいと思いますか。(MA)



これから学びたいことについて尋ねたところ、男性では「語学」「将来の仕事をめざした技能」「現在の仕事に役立つ技能」、女性では「文化・芸術に関すること」「家庭生活に役立つ技能」「将来の仕事をめざした技能」が上位3つを占めた。男性に高く女性に低いものは「現在の仕事に役立つ技能」「社会・経済に関すること」「学術や教養に関すること」、女性に高く男性に低いものは「文化・芸術に関すること」「家庭生活に役立つ技能」、男女共通して高いのは「語学」「将来の仕事をめざした技能」という結果になった。

4-4 学ぶ理由

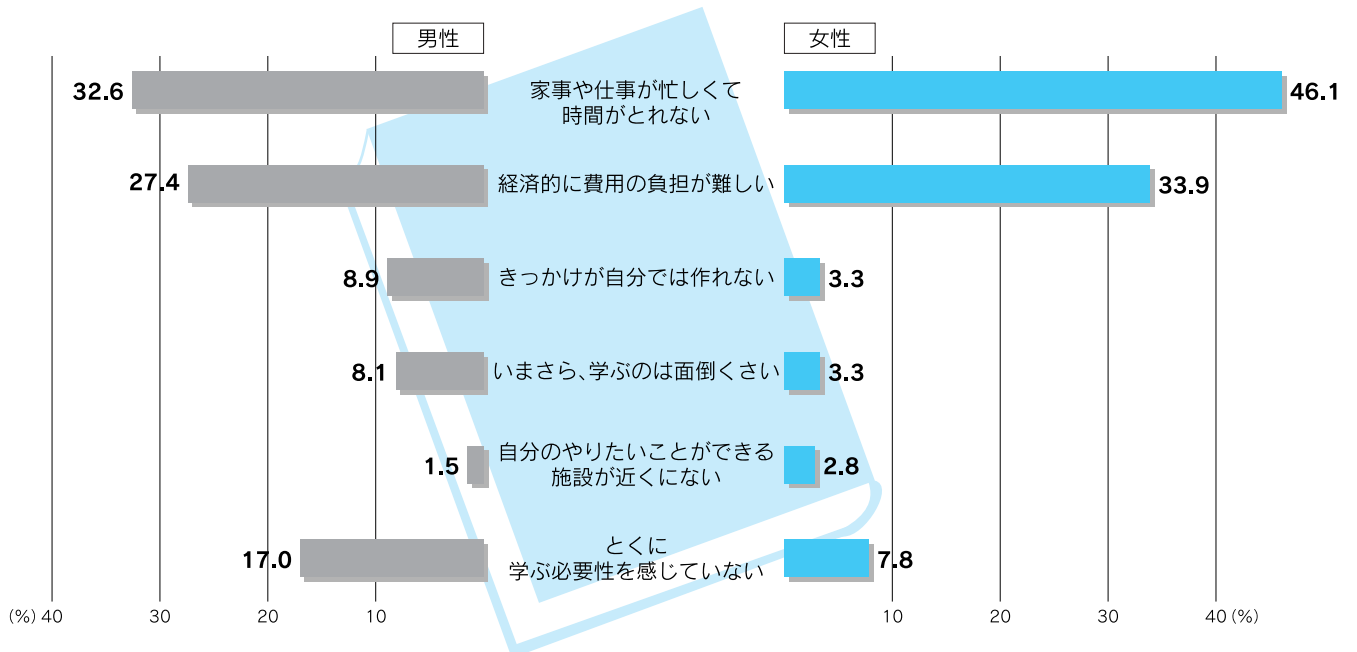
あなたはなぜ学んでいるのですか。(SA)



「この1年間で学ぶ活動を行った」と回答した人に、その理由を尋ねたところ、「好きだから」が50%以上で圧倒的な1位となり、次いで「知識欲を充足させたいから」となった。「仕事」に関する理由では、「現在の仕事に役立つから」よりも「将来の仕事に役立つから」が20ポイント近く多い結果となった。

4-5 学ばない理由

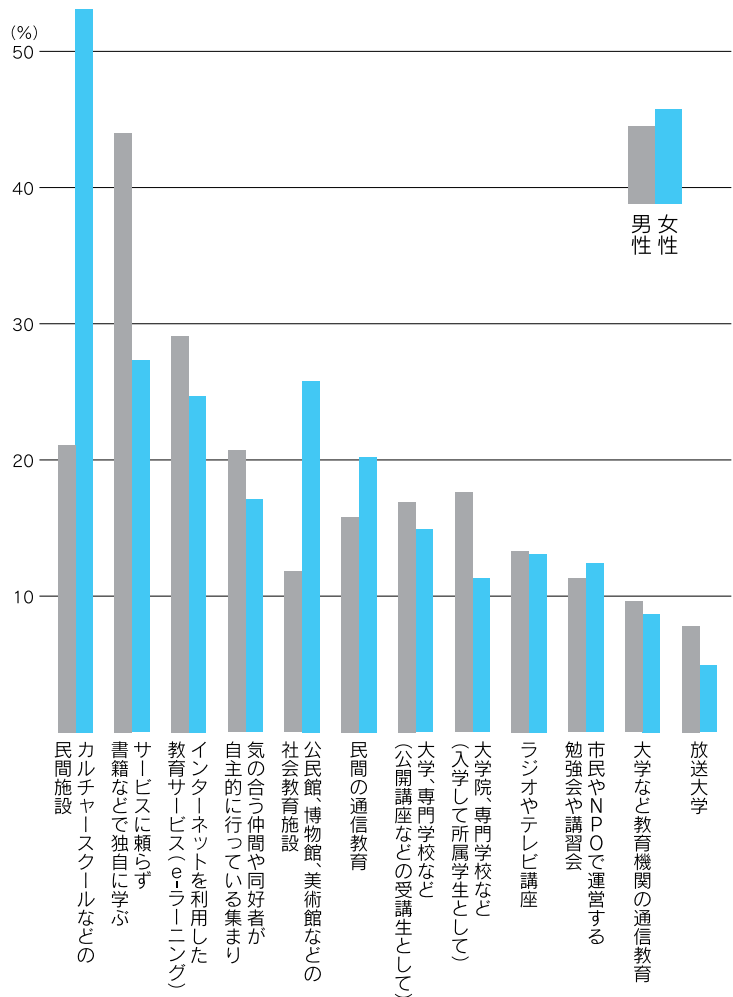
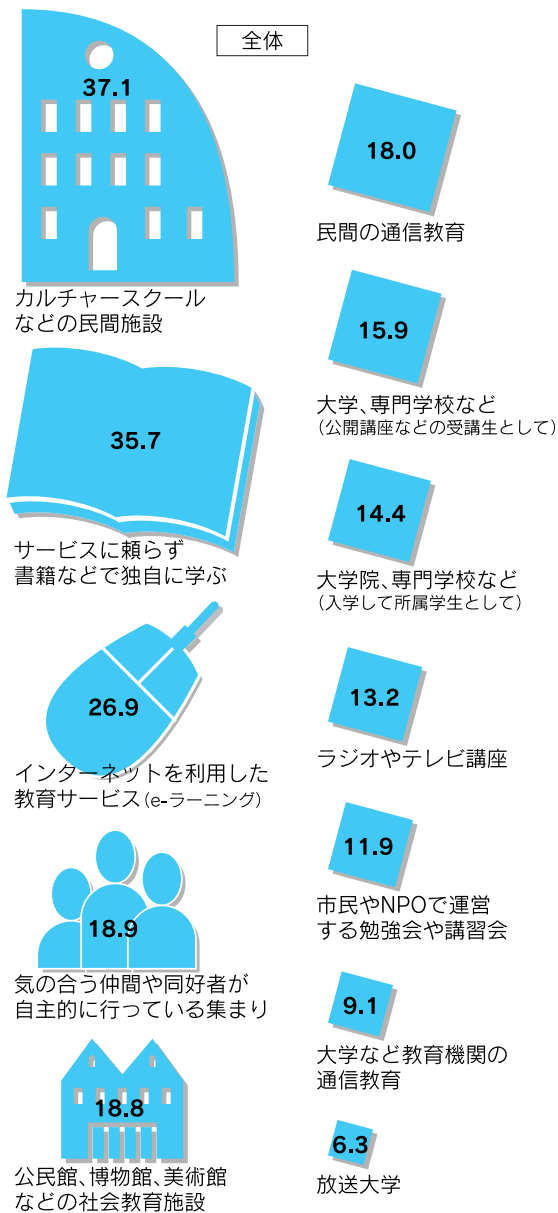
現在、習い事やスポーツ、通信教育などの学ぶ活動を行っていない理由はなんですか。あてはまるものを選んでください。(SA)



「この1年間で学ぶ活動を行っていない」と回答した人に対して、その理由を尋ねたところ、男女ともに「家事や仕事が忙しくて時間がとれない」「経済的に費用の負担が難しい」「とくに学ぶ必要性を感じていない」が上位3つを占めた。ただし「家事や仕事が忙しくて時間がとれない」「経済的に費用の負担が難しい」はいずれも女性のほうが多く、「学ぶ必要はない」は男性のほうが多い結果となった。

4-6 学びたい場

あなたは、これからなにかを学ぶとしたら、どのような場で学びたいですか。(MA)



どのような場で学びたいかを尋ねたところ、1位は「カルチャーセンターなどの民間施設」、僅差で「サービスに頼らず書籍などで独自に学ぶ」が続き、あとは「インターネットを利用した教育サービス」「気合う仲間や同好者が自主的に行っている集まり」「公民館、博物館、美術館などの社会教育施設」が上位5位を占めた。上位5つのうち、2つは「自宅」で学ぶ学習手段が選ばれている。男女でとくに差が大きいもののうち、男性に多いのは「サービスに頼らず書籍などで独自に学ぶ」で、女性に多いのは「カルチャーセンターなどの民間施設」「公民館、博物館、美術館などの社会教育施設」で、いずれも10ポイント以上の差となった。

4-7 学びたい場ランキング

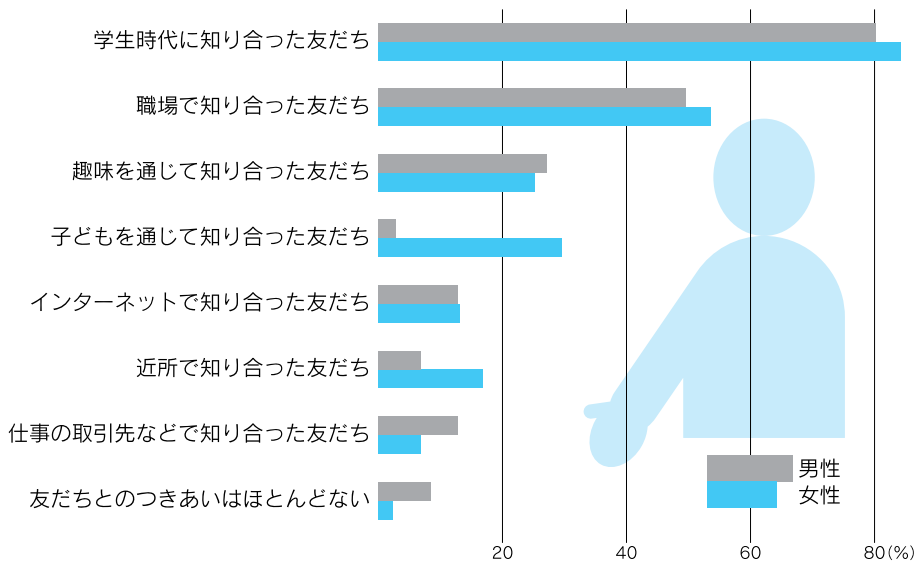
あなたは、これからなにかを学ぶとしたら、どのような場で学びたいですか。(MA)

	男性	女性
1位	サービスに頼らず書籍などで独自に学ぶ	カルチャースクールなどの民間施設
2位	インターネットを利用した教育サービス(e-ラーニング)	サービスに頼らず書籍などで独自に学ぶ
3位	カルチャースクールなどの民間施設	公民館、博物館、美術館などの社会教育施設
4位	気合う仲間や同好者が自主的に行っている集まり	インターネットを利用した教育サービス(e-ラーニング)
5位	大学院、専門学校など(入学して所属学生として)	民間の通信教育

どのような場で学びたいかについて、男女別にランキングを出してみると、男女で違いが見られた。男性では「サービスに頼らず書籍などで独自に学ぶ」「インターネットを利用した教育サービス」など、家で一人で学習する手段が多く挙げられたが、女性では「カルチャーセンターなどの民間施設」「公民館、博物館、美術館などの社会教育施設」など、家以外の場で他の人といっしょに学ぶ手段を望む割合が多かった。

5-1 友だちとのつきあい

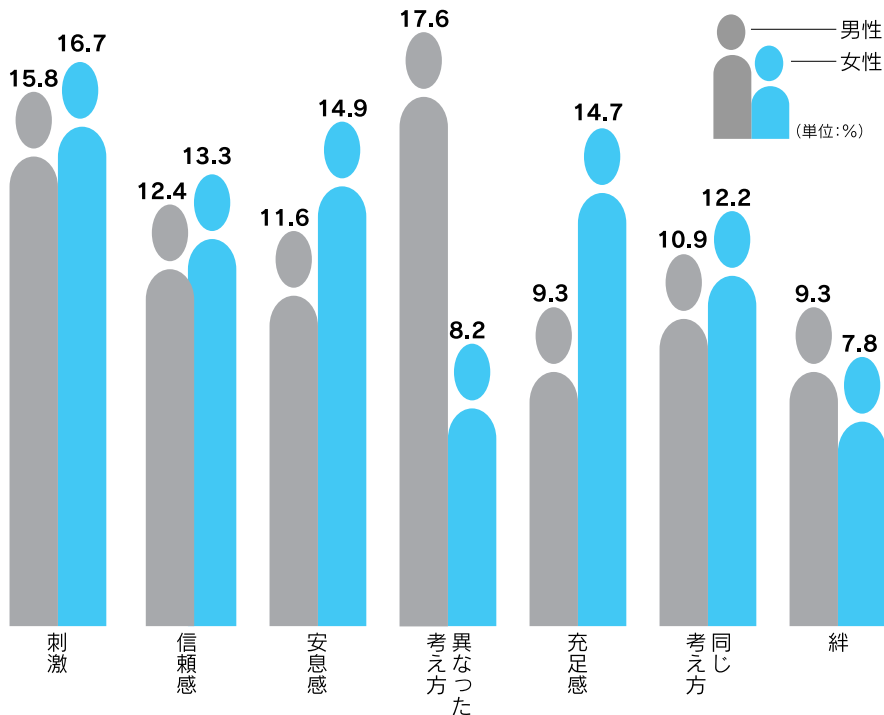
普段つきあいのある友だちは、どのように知り合った友だちですか。
以下の中からあてはまるものすべてを選んでください。(MA)



普段どのような友だちとつきあっているか尋ねたところ、「学生時代に知り合った友だち」が男女ともに8割以上で、1位を占めた。男女の差が大きいのは「子どもを通じて知り合った友だち」「近所で知り合った友だち」で、いずれも女性のほうが2倍以上多い。また、「職場で知り合った友だち」「学生時代に知り合った友だち」も女性のほうが若干多く、男性が多いのは「趣味を通じて知り合った友だち」「仕事の取引先などで知り合った友だち」「友だちつきあいはほとんどない」だった。

5-2 友だちといるときに感じること

友だちといるときに、なにを感じますか。(SA)

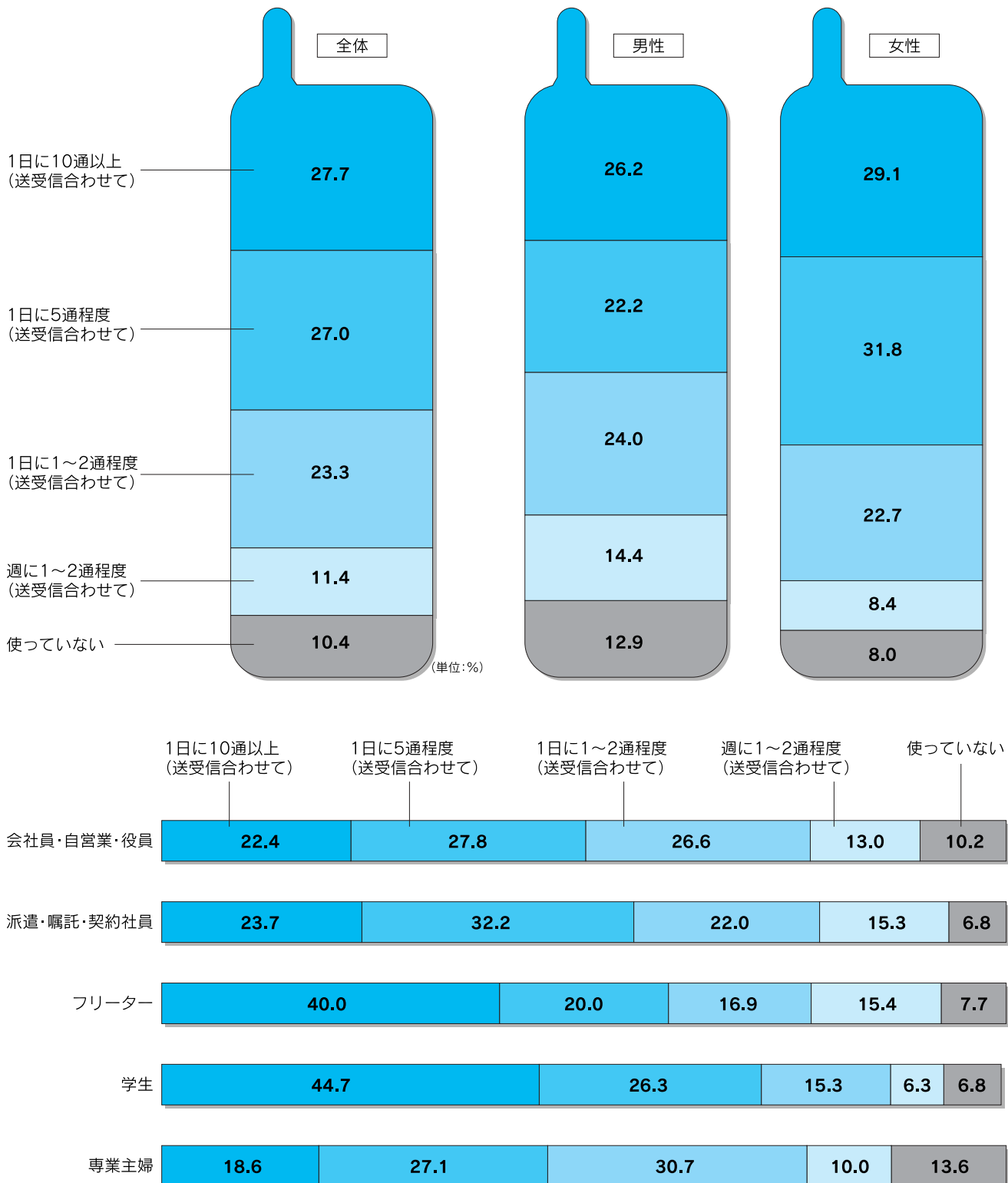


友だちといるときに感じることに尋ねたところ、男性は1位「異なった考え方」、2位「刺激」、3位「信頼感」、女性は1位「刺激」、2位「安息感」、3位「充足感」という結果になった。男女共通して多いのは「刺激」「信頼感」で、男女で違いが見られたのは「異なった考え方」「充足感」「安息感」だった。「異なった考え方」は男性に多く、「充足感」と「安息感」は女性に多い。とくに「異なった考え方」は男性が女性の2倍以上と高く、際立った違いとなった。

数年前から急激に普及率が上がった携帯電話、携帯メールは、人々のコミュニケーション手段を劇的に変化させたといわれている。この携帯電話やメールは、若者の友だちつきあいにどのように影響しているのだろうか。「コミュニケーションの道具の問題にも触れながら、若者が友だちとのような「つながり」を結んでいるのか、また結ぼうとしているのかを

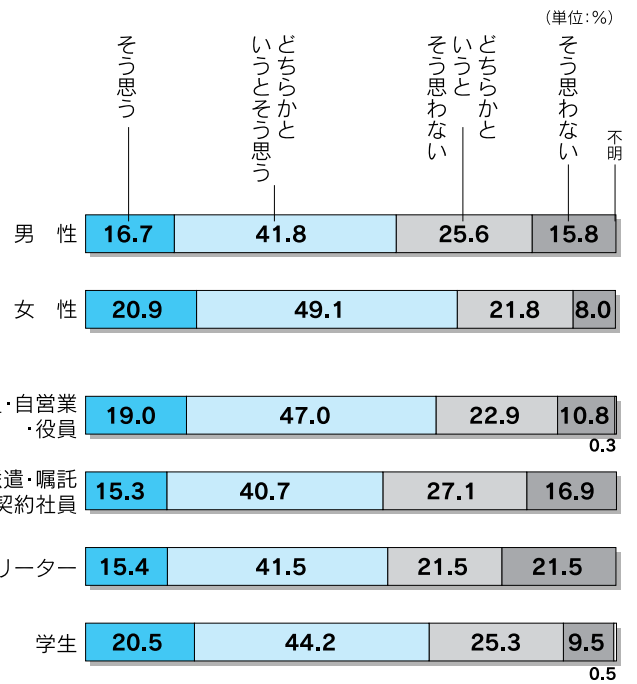
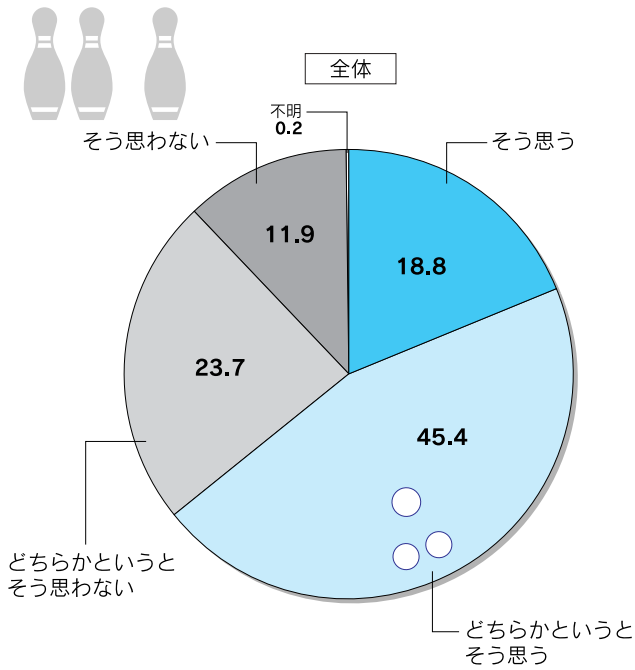
5-3 携帯メールの使用頻度

あなたはプライベート(DM等を含まず)で携帯電話・PHSのメール機能を使っていますか。(SA)



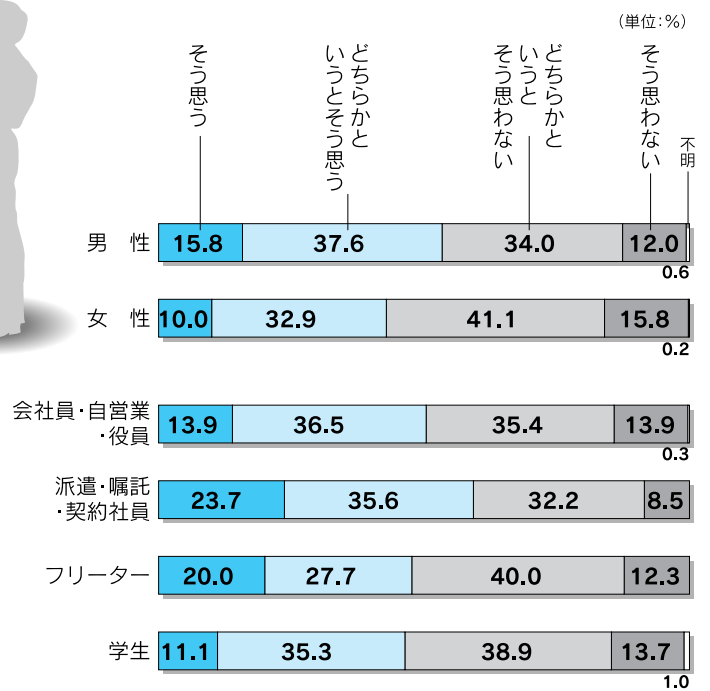
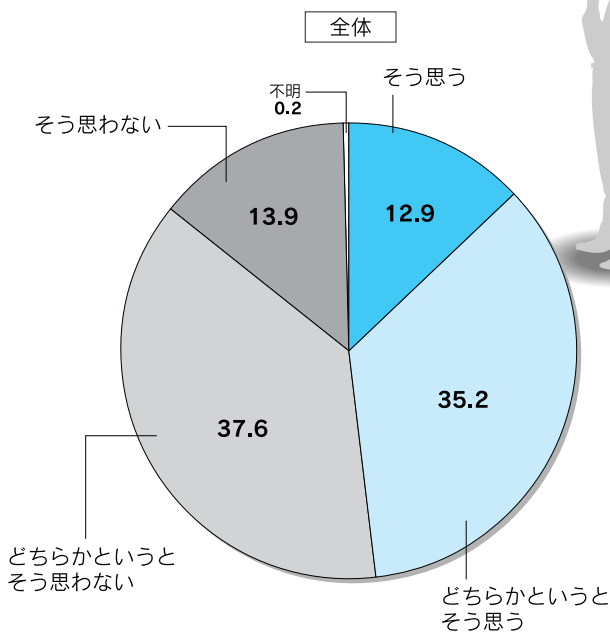
携帯電話・PHSのメールの使用頻度について尋ねたところ、「1日に10通以上」が27.7%、「1日に5通程度」が27%、「1日に1~2通程度」が23.3%で、合計すると、全体の78%が毎日最低1通は送受信しているという結果になった。男女別に見ると、女性のほうが「1日に10通以上」「1日に5通程度」という高頻度使用者が多く、「使っていない」人が少ない。職業別では、専業主婦の使用頻度が低く、学生、フリーターの使用頻度が高い。とくに学生とフリーターでは、「1日に10通以上」という高頻度使用者がその40%以上を占める結果となった。

場面によっていっしょに遊ぶ友人を分けている。



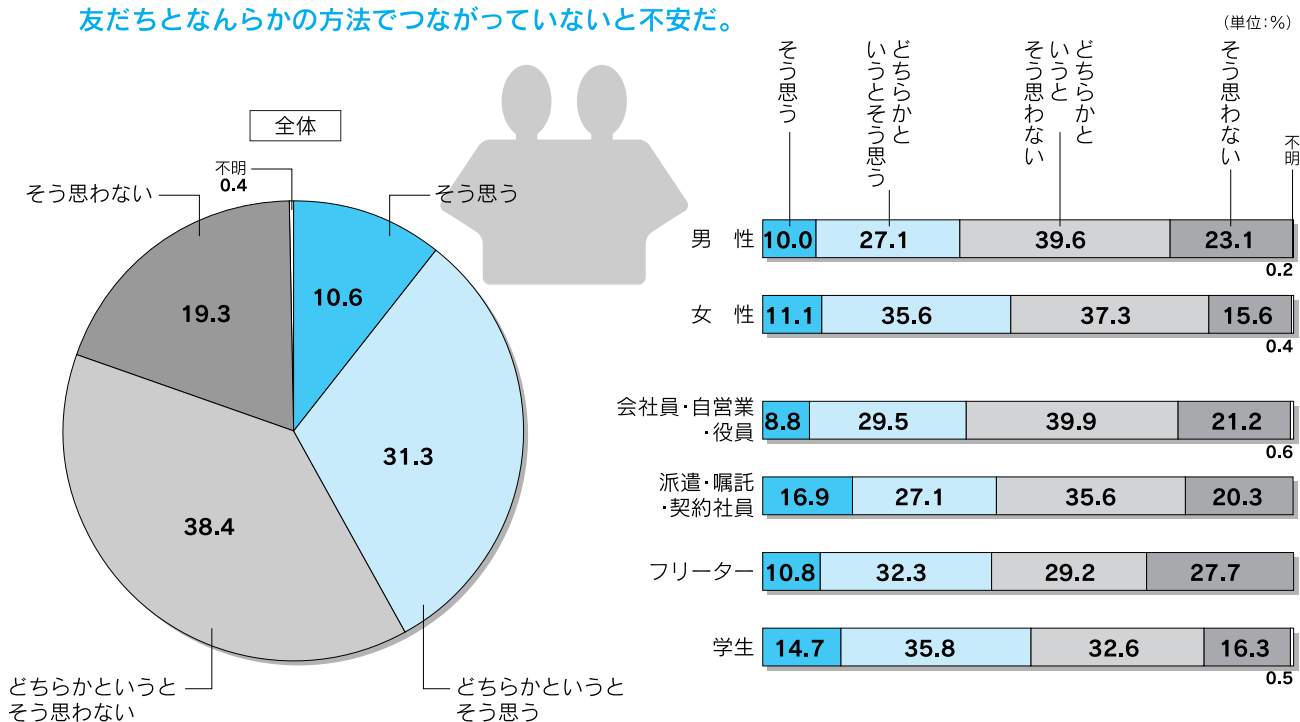
「場面によっていっしょに遊ぶ友人を分けている」かどうか尋ねたところ、「そう思う」「どちらかというと思う」の合計(以下「そう思う計」)は64.2%で、全体の約3分の2を占めた。この傾向は男性よりも女性に強く、女性の「そう思う計」は70%で、男性の58.5%を10ポイント以上、上回る。就労別で見ると、「そう思う計」は「会社員・自営業・役員」が最も多く、僅差で「学生」が続き、そのあとは「フリーター」「派遣・嘱託・契約社員」という順になった。フリーターは「そう思う計」が派遣・嘱託・契約社員より多いものの、「そう思わない」は21.5%で最も高い結果となった。

一人であるのが一番好きだ。



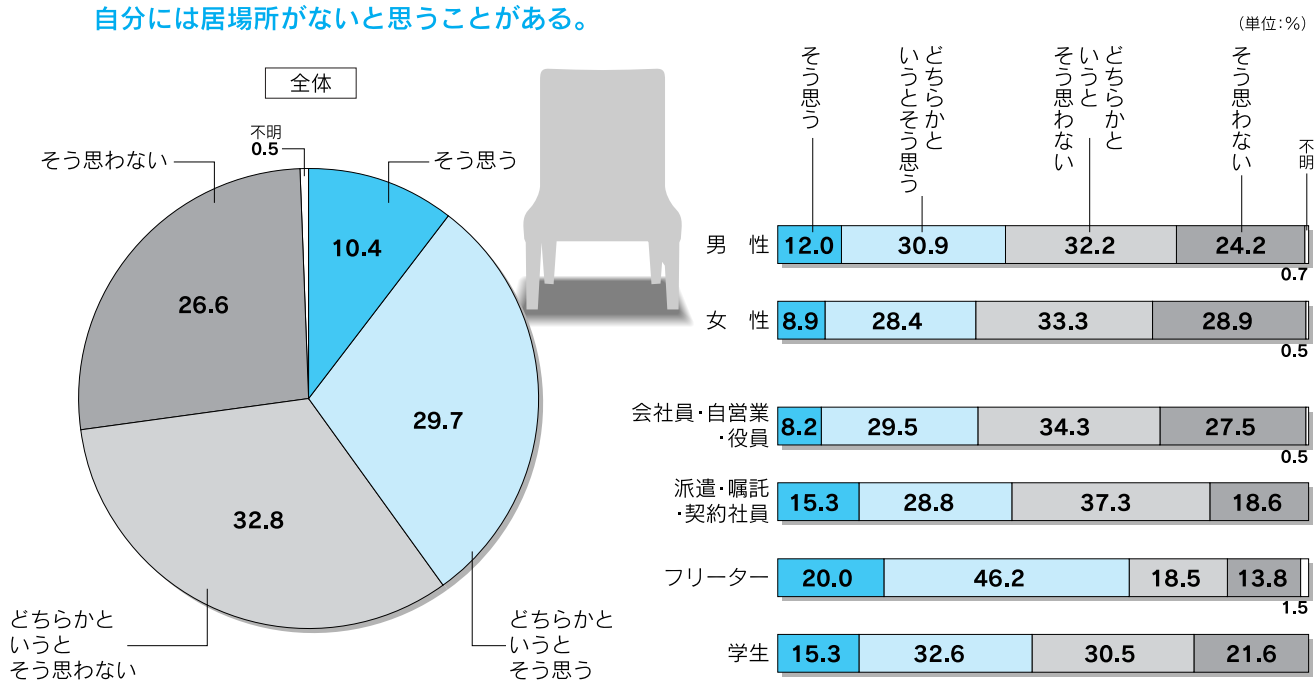
「一人であるのが一番好きだ」かどうか尋ねたところ、「そう思う」「どちらかというと思う」の合計(以下「そう思う計」)は全体の48.1%で、約5割という結果となった。男女別に見ると、男性の「そう思う計」は53.4%で、女性の42.9%よりも10ポイント以上高い。また就労別に見ると「派遣・嘱託・契約社員」が59.3%で最も高く、「学生」が46.4%で最も低い結果となった。

友だちとなんらかの方法でつながっていないと不安だ。



「友だちとなんらかの方法でつながっていないと不安」かどうか尋ねたところ、「そう思う」「どちらかというように思う」の合計（以下「そう思う計」）は全体の41.9%で、約4割という結果になった。この傾向は男性よりも女性に強く、女性の「そう思う計」は46.7%で、男性の37.1%を約10ポイント上回る。就労別に見ると、「学生」が50.5%で最も多く、「会社員・自営業・役員」が38.3%で、最も少ない結果となった。

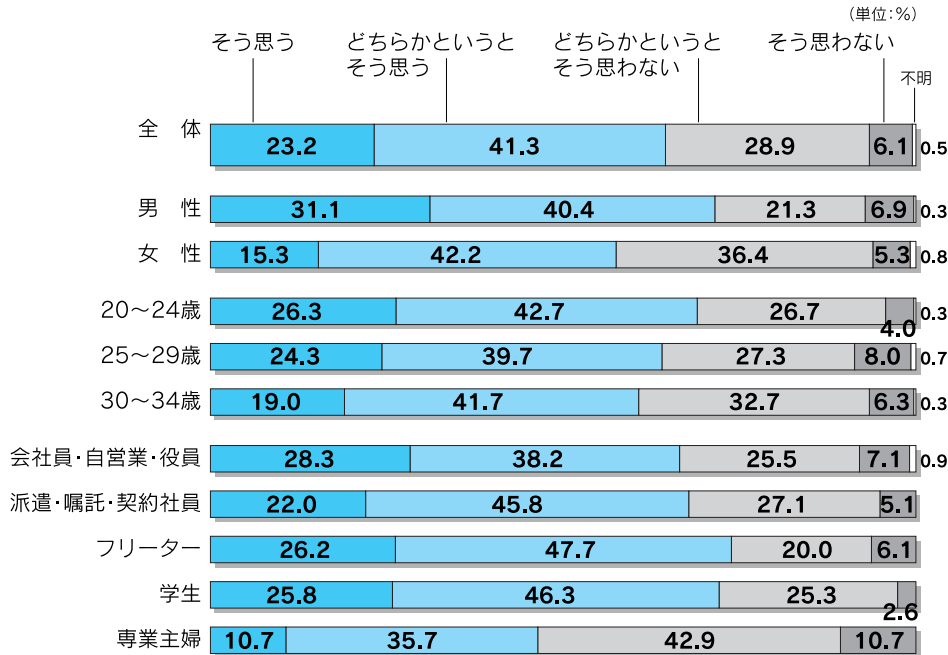
自分には居場所がないと思うことがある。



「自分には居場所がないと思うことがある」かどうか尋ねたところ、「そう思う」「どちらかというように思う」の合計（以下「そう思う計」）は全体の約4割という結果になった。この傾向は女性よりも男性に強く、男性の「そう思う計」は42.9%で、女性の37.3%を約6ポイント上回る。就労別で見ると、「フリーター」が66.2%で際立って高く、次いで「学生」47.9%、「派遣・嘱託・契約社員」44.1%と続き、「会社員・自営業・役員」が37.7%で最も少ないという結果になった。

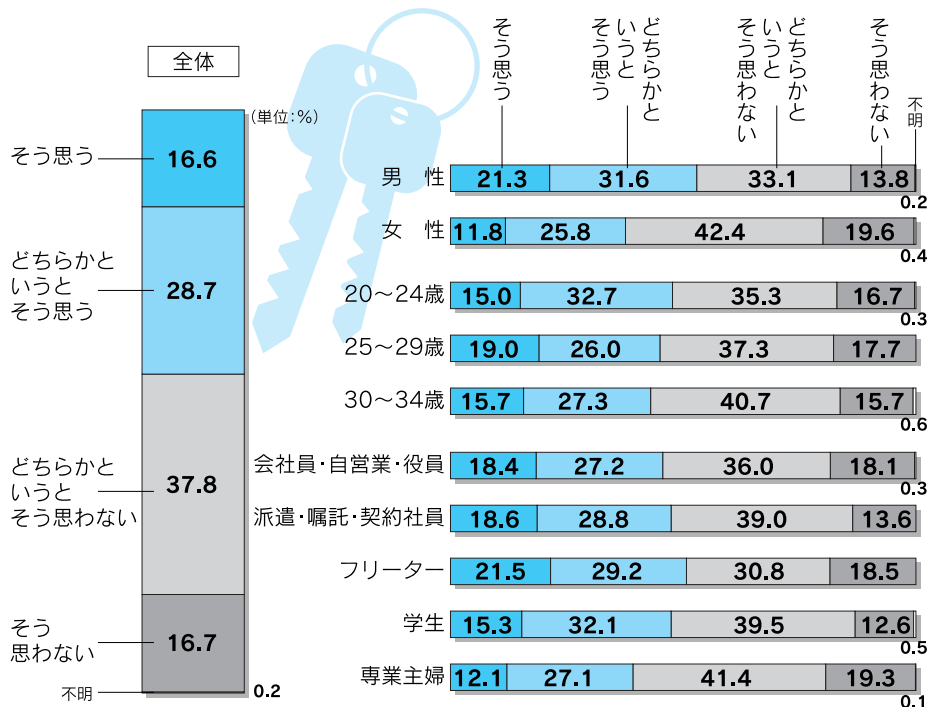
6-1 自立志向

組織や家族に頼らず自立した生き方をしたい。



「組織や家族に頼らず自立した生き方をしたい」かどうか尋ねたところ、「そう思う」「どちらかというそう思う」の合計(以下「そう思う計」)は、全体の64.5%という結果になった。男女で比べると、男性のほうがその傾向が強く、男性の「そう思う計」は71.5%で、女性の57.5%を15ポイント近く上回る結果となった。年齢で比べると、20代前半は「そう思う計」が69%で約7割を占めるが、年齢が上がるにつれて低下していく。就労別に見ると、「専業主婦」が46.4%と際立って少なく、「フリーター」が73.9%と多いが、「会社員・自営業・役員」「派遣・嘱託・契約社員」の間には、さほど大きな違いは見られなかった。

一定の収入を得るようになったら特別な事情がない限り家を出るべきだ。

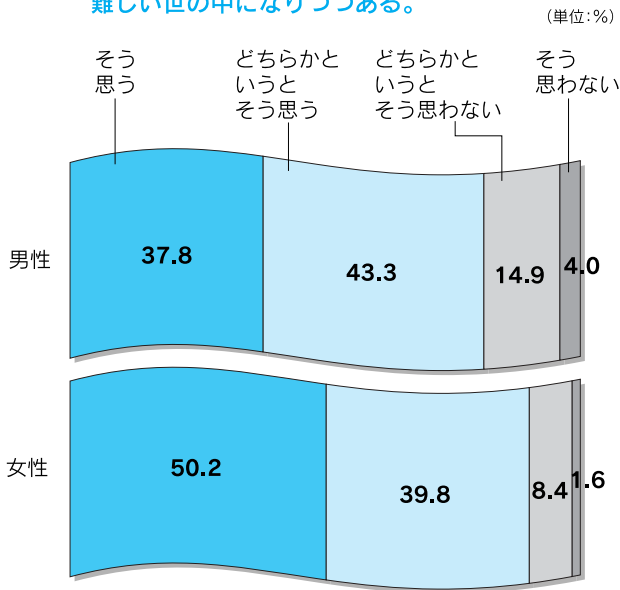


「一定の収入を得るようになったら特別な事情がない限り家を出るべきだ」と思うかどうか尋ねたところ、「そう思う」「どちらかというそう思う」の合計(以下「そう思う計」)は、全体の45.3%で、半数以下という結果となった。男女で比べると、女性の「そう思う計」は37.6%で、男性の52.9%に比べ、15ポイント以上低い。年齢別に見ると、年齢が上がるにつれて、「そう思う計」は少しずつ減っていく。就労別に見ると、「そう思う計」が最も多いのはフリーターで、最も少ないのは専業主婦という結果になった。

若者に対する批判は、いつの世も盛んだ。最近では、就職したあとも親元を離れない若者を「バラサイト・シングル」と呼び、その自立心のなさを批判する人、また増加し続けるフリーターに対して、その仕事に対する意欲の低下、努力回避、上昇志向のなさを批判する人などが多い。果たして、彼らは本当に自立心に乏しく、上昇志向に欠けるのだろうか。また、女性の高学歴化、社会進出が進み、「男性が働き、女性が家を守る」という役割意識は、ここ数年で急激に低下しつつあるといわれている。果たして、彼らの意識はどつなっているのだろうか？

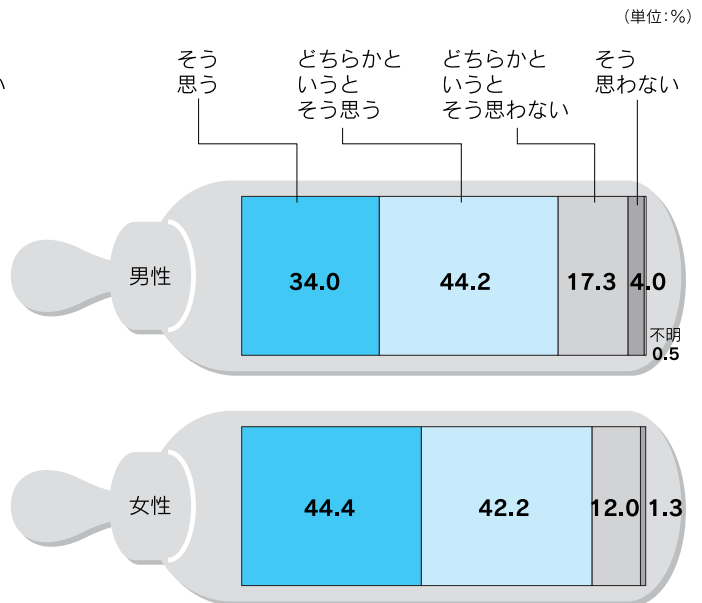
6-2 性役割意識

夫の収入だけで妻子を養うのは
難しい世の中になりつつある。



「夫の収入だけで妻子を養うのは難しい世の中になりつつある」と思うかどうか尋ねたところ、「そう思う」は男性が37.8%、女性が50.2%で、女性が男性を10ポイント以上、上回る結果となった。また、「そう思う」と「どちらかという」と「どちらかという」と「そう思わない」の合計は、男性は8割、女性は9割を超えており、「夫の収入だけでは難しい」と考える人が大多数を占めていることが分かった。

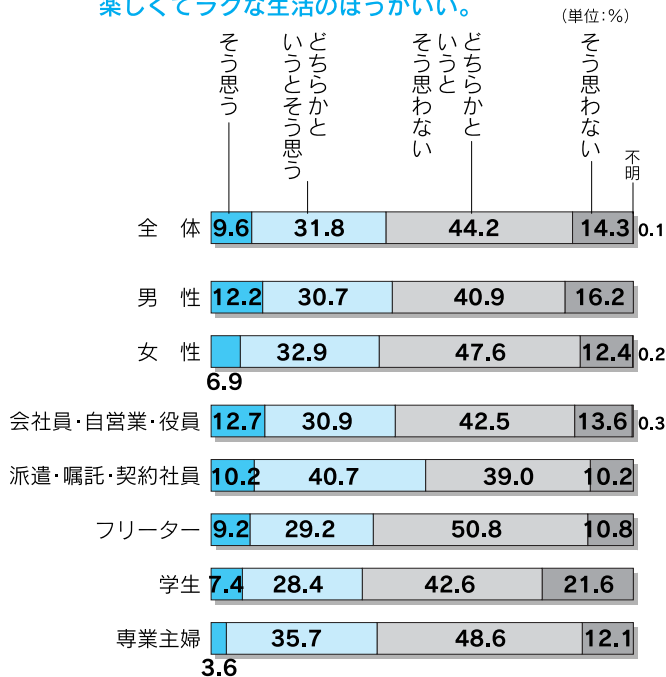
家事・育児は夫婦が半々で分担すべきだ。



「家事・育児は夫婦が半々で分担すべきだ」と思うかどうか、尋ねたところ、「そう思う」は男性が34%、女性が44.4%で、女性のほうが10%ほど上回る結果となった。「そう思う」と「どちらかという」と「そう思う」の合計は、男性は78.2%、女性は86.6%で、左の質問ほど多くはならなかった。

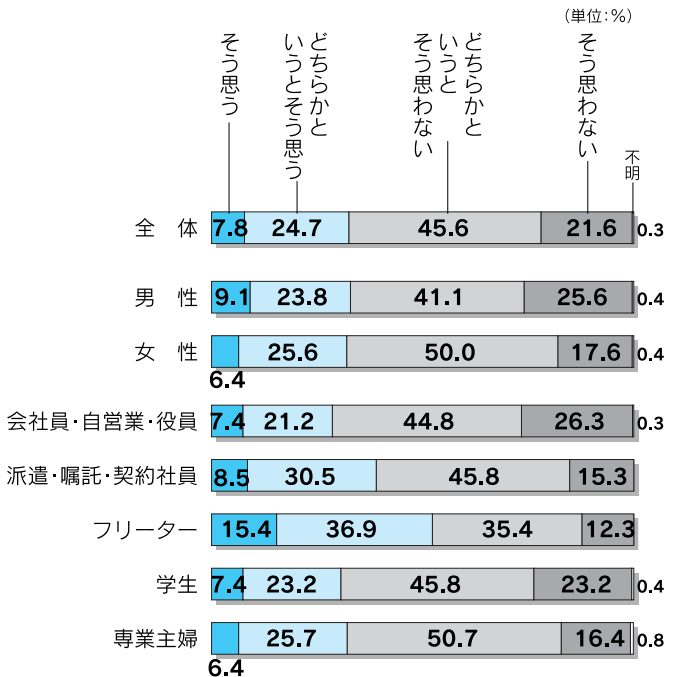
6-3 上昇志向

目標を持って努力するより
楽しくてラクな生活のほうがいい。



「目標を持って努力するより楽しくてラクな生活のほうがいい」かどうか尋ねたところ、「そう思う」「どちらかという」と「そう思う」の合計(以下「そう思う計」)は、全体の41.4%となった。「そう思う計」を男女別で見ると、男性のほうが3%多いだけで、ほとんど違いは見られなかった。就労別で見ると「派遣・嘱託・契約社員」が50.9%と際立って高く、2位以下は僅差で「会社員・自営業・役員」「専業主婦」「フリーター」「学生」という順になった。

いくら努力してもダメなことが多い。



「いくら努力してもダメなことが多い」かどうか尋ねたところ、「そう思う」「どちらかという」と「そう思う」の合計(以下「そう思う計」)は、全体の32.5%という結果になった。男性と女性の違いはほとんど見られず、就労別に見ると、「フリーター」が52.3%で際立って高い。次いで「派遣・嘱託・契約社員」「専業主婦」「学生」「会社員・自営業・役員」という順になった。